

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年3月30日

九州運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点		評価結果
福岡県バス対策協議会	堀川バス(株) 昭和自動車(株) 西鉄バス佐賀(株) 西鉄バス久留米(株) 西鉄バス筑豊(株) 西鉄バス宗像(株) 西鉄バス大牟田(株) 西鉄バス北九州(株) JR九州バス(株)	42系統 ※詳細は別添一次評価のとおり	別添一次評価のとおり	A評価: 42系統 B評価: 0系統 C評価: 0系統	A評価: 11系統 B評価: 22系統 C評価: 9系統  【参考: 前年度】 A評価: 13系統 B評価: 22系統 C評価: 7系統	別添一次評価のとおり	<p>・自治体による定期券購入補助、学校説明会、時刻表や沿線情報チラシの配布、バスの乗り方教室、沿線校区での利用促進部会の開催、運行車両のダウンサイジング、バス車内やホームページでの情報発信、企画乗車券の販売促進等利用促進に取り組まれていることを評価します。</p> <p>・生産性向上に関するWG等を地域毎に開催して、検討や意見交換を行い、関係市町村及び事業者が目標の達成に向け取り組みを行っていくことの共通認識が図られていることを評価します。引き続き、地域間幹線系統における生産性向上の取り組みの着実な実施を期待します。</p> <p>・評価指標が収支率のみとなっています。収支率は生産性向上の取り組みにおいて必要とされている重要な指標ではありませんが、燃料費等の外的要因の影響を大きく受けることから、収支率に加えて輸送人員や経常収益などの評価指標も併せて設定することを検討してください。</p> <p>・生活路線と観光利用は必ずしも一致しないこともありますので、利用者の実態把握、利用者増減の要因分析を行い、地域特性を踏まえた対応策を考えていくことが重要です。また、乗り方教室等のイベントは「知ってもらう」「乗ってみる」の先の「乗り続ける」という視野まで広げていただき、乗り続けたいと思う仕組みを進めていくことが重要です。今後も県と市町村が連携を図り、事業者や住民と共に持続可能な効率的で利便性の高いネットワークが維持改善されることを期待します。</p>	評価指標【収支率】

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月24日

協議会名: 福岡県バス対策協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
堀川バス(株)	羽犬塚～ゆめタウン前～福島～黒木の運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふる里タクシーの乗降場所ランキングでは、福島バス停・黒木バス停が上位に入るなど、一定の成果が得られた。(乗継利便性の向上)</li> <li>・引き続き、「路線バス定期券補助事業を実施し、併せて学校説明会等でチラシの配布等を行った。</li> <li>・市内の公共交通情報をまとめたガイドブックを作成し、全戸配布を行った。また、公共交通専用ホームページを作成し、利用促進を図った。</li> <li>・大型スポーツイベントにて、ノベルティー・チラシ配布など利用促進活動を行った。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率47.0% 【実績】収支率38.4%( $-8.6\%$ ) 対前年比収入の減少、経費(外注修繕費等)の増加により目標収支率を達成できなかった。	八女市内全域で運行しているドアツードア型のデマンド交通「ふる里タクシー」の運行により、高齢者に外出機会を与え、路線バスとのさらなる乗り継ぎ利便性向上を行う。また、作成したガイドブックやホームページを多方面で利用・充実させる。八女市で実施している「路線バス通学定期券補助事業」や、堀川バスの「一日乗車券」等のサービスの周知。あわせて、地域イベントと連携しながら更なる利用促進活動・広報活動に取り組む。
堀川バス(株)	羽犬塚～蒲原～黒木～柴庵の運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふる里タクシーの乗降場所ランキングでは、福島バス停・黒木バス停が上位に入るなど、一定の成果が得られた。(乗継利便性の向上)</li> <li>・引き続き、「路線バス定期券補助事業を実施し、併せて学校説明会等でチラシの配布等を行った。</li> <li>・市内の公共交通情報をまとめたガイドブックを作成し、全戸配布を行った。また、公共交通専用ホームページを作成し、利用促進を図った。</li> <li>・大型スポーツイベントにて、ノベルティー・チラシ配布など利用促進活動を行った。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率53.9% 【実績】収支率45.5%( $-8.4\%$ ) 対前年比収入の減少、経費(外注修繕費等)の増加により目標収支率を達成できなかった。	八女市内全域で運行しているドアツードア型のデマンド交通「ふる里タクシー」の運行により、高齢者に外出機会を与え、路線バスとのさらなる乗り継ぎ利便性向上を行う。また、作成したガイドブックやホームページを多方面で利用・充実させる。八女市で実施している「路線バス通学定期券補助事業」や、堀川バスの「一日乗車券」等のサービスの周知。あわせて、地域イベントと連携しながら更なる利用促進活動・広報活動に取り組む。
堀川バス(株)	福島～鎌水・西鉄久留米～久留米駅	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイパス改正によるダイヤ改正に合わせ時刻表を沿線の住民に配布を行った。路線情報が掲載された公共交通マップを各所で配布した。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率70.5% 【実績】67.0%( $-3.5\%$ ) 収支率はH30実績の66.9%から67.0%に増加したが、目標には届かなかった。	引き続き時刻表を作成し、沿線の住民に配布を行うなど、広報等による継続した利用促進を地域、関係市町村と実施する。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
堀川バス(株)	福島～田ノ原～十箆車庫前の運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふる里タクシーの乗降場所ランキングでは、福島バス停・黒木バス停が上位に入るなど、一定の成果が得られた。(乗継利便性の向上)</li> <li>・引き続き、「路線バス定期券補助事業を実施し、併せて学校説明会等でチラシの配布等を行った。</li> <li>・市内の公共交通情報をまとめたガイドブックを作成し、全戸配布を行った。また、公共交通専用ホームページを作成し、利用促進を図った。</li> </ul>	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率46.4% 【実績】収支率39.3%(-7.1%) 対前年比収入の減少、経費(外注修繕費等)の増加により目標収支率を達成できなかった。	八女市内全域で運行しているドアツードア型のデマンド交通「ふる里タクシー」の運行により、高齢者に外出機会を与え、路線バスとのさらなる乗り継ぎ利便性向上を行う。また、作成したガイドブックやホームページを多方面で利用・充実させる。八女市で実施している「路線バス通学定期券補助事業」や、堀川バスの「一日乗車券」等のサービスの周知。あわせて、地域イベントと連携しながら更なる利用促進活動・広報活動に取り組む。
堀川バス(株)	JR瀬高駅前～西鉄柳川駅～保養センター前の運行	利用者は少しずつであるが増加傾向にある。各団体への時刻表や割引運賃制度についてのチラシ配布、小学生を対象にしたバスの乗り方教室などの利用促進を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率59.3% 【実績】収支率55.3%(-4.0%) 昨年度と比べて収支率は改善したが、目標達成まではしなかった。	利用者のニーズ把握に努め、他の公共交通機関との接続や利用しやすいダイヤを検討していく。また引き続き関係市と連携した啓発活動や広報誌掲載等で沿線住民に対し利用促進、割引サービス等の周知を図る。
昭和自動車(株)	前原～前原駅前・加布里～芥屋の運行	生産性向上の取り組みとして、沿線の引津校区(H31.2.28)にて利用促進部会を開催した。また、効率化を図るためH30.12より小型バスからジャンボタクシーにモード転換を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 【目標】収支率49.1% 【実績】収支率35.6%(-13.5%) 利用人員は748人の利用減となった。 経常収益は営業外収入の増加のため昨年よりも増加したが、人件費、燃料費の増加により収支率は悪化した。	利用促進協議会を軸に、沿線校区の意見を取り入れ増収を図る。また、糸島市志摩地域を運行するバスは、市民の生活路線としてだけでなく、本市を訪れる観光客の利用も多い路線である。のびしろの多い観光客のバス利用についての取り組みも市と観光協会、事業者と協力して進めていく必要がある。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
昭和自動車(株)	前原～師吉公民館前・初～船越の運行	生産性向上の取り組みとして、沿線の可也校区(H30.11.14)にて利用促進部会を開催した。また、効率化を図るためH30.12より小型バスからジャンボタクシーにモード転換を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 【目標】収支率52.5% 【実績】収支率31.4%( $-21.1\%$ ) 利用人員は754人の利用減となった。 経常収益は営業外収入の増加のため昨年よりも増加したが、人件費、燃料費の増加により収支率は悪化した。	利用促進協議会を軸に、沿線校区の意見を取り入れ増収を図る。また、糸島市志摩地域を運行するバスは、市民の生活路線としてだけではなく、本市を訪れる観光客の利用も多い路線である。のびしろの多い観光客のバス利用についての取り組みも市と観光協会、事業者と協力して進めていく必要がある。
昭和自動車(株)	前原～師吉公民館前・野北～伊都営業所の運行	生産性向上の取り組みとして、沿線の可也校区(H30.11.14)、桜野校区(H31.2.28)にて利用促進部会を開催した。また、効率化を図るためH30.12より小型バスからジャンボタクシーにモード転換を行った。また、利便性向上のため、同じタイミングで終点を「谷」バス停から九州大学線や西の浦線と接続する伊都営業所まで延伸した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 【目標】収支率40.2% 【実績】収支率29.8%( $-10.4\%$ ) 利用人員は56人の利用減となった。 経常収益は営業外収入の増加のため昨年よりも増加したが、人件費、燃料費の増加により収支率は悪化した。	利用促進協議会を軸に、沿線校区の意見を取り入れ増収を図る。また、糸島市志摩地域を運行するバスは、市民の生活路線としてだけではなく、本市を訪れる観光客の利用も多い路線である。のびしろの多い観光客のバス利用についての取り組みも市と観光協会、事業者と協力して進めていく必要がある。
西鉄バス佐賀(株)	JR久留米～久留米警察署～西鉄鳥栖	小学校にて乗り方教室を実施するとともに、時刻表を沿線の住民に配布。路線情報が掲載された公共交通マップを各所で配布した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率73.2% 【実績】収支率66.0%( $-7.2\%$ ) 約106千円の減収となり経費も約2,762千円増加し、収支率が悪化した。	引き続き時刻表を作成し、沿線の住民に配布を行うなど、広報等による継続した利用促進を地域、関係市町村と実施するほか、交通事業者と連携し、バスの乗り方教室等利用促進を進めていく。
西鉄バス佐賀(株)	鳥栖駅～綾部・国立東佐賀病院前～西鉄久留米	小学校にて乗り方教室を実施するとともに、時刻表を沿線の住民に配布。路線情報が掲載された公共交通マップを各所で配布した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率49.4% 【実績】収支率42.0%( $-7.4\%$ ) 約56千円の減収となり経費も約2,715千円増加し、収支率が悪化した。	引き続き時刻表を作成し、沿線の住民に配布を行うなど、広報等による継続した利用促進を地域、関係市町村と実施するほか、交通事業者と連携し、バスの乗り方教室等利用促進を進めていく。
西鉄バス久留米(株)	早津江～布橋～西鉄柳川	柳川市において、路線バスの乗り方や時刻表を記載したチラシの配布を実施した。 大川市において、商業施設でのチラシの配布や行政区単位での利用促進チラシの回覧を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 【目標】55.2% 【実績】44.7%( $-10.5\%$ ) 収益は減少、経費は増加した。継続して利用促進活動を行う必要がある。	利用状況の把握に努めるとともに、関係市と連携した街頭啓発や広報誌掲載、行政区単位のチラシ回覧などの実施により、更なる利用促進を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西鉄バス久留米(株)	大野島農協前～堤・筑後市立病院～羽犬塚駅前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業施設でのチラシの配布や広報誌掲載、行政区単位での利用促進チラシの回覧を行った。</li> <li>・大型スポーツイベント開催に当たって、ノベルティー・チラシ配布など利用促進活動を行ったり、SNS広告配信にて、観光分野と連携した利用促進活動を行った。</li> </ul>	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 【目標】36.9% 【実績】33.3%(-3.6%) 収益は減少、経費は増加した。継続して利用促進活動を行う必要がある。	利用状況の把握に努めるとともに、関係市と連携した街頭啓発や広報誌掲載、行政区単位のチラシ回覧などの実施により、更なる利用促進を図る。
西鉄バス久留米(株)	大川橋～下林・大善寺～JR久留米	時刻表を沿線の住民に配布。路線情報が掲載された公共交通マップを各所で配布した。接続しているフィーダー系統路線の城島地域への時刻表全戸配布を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率52.1% 【実績】収支率48.6%(-3.5%) 年間で差+129千円の増収となったが、経費が約3,897千円増加したため、収支率が悪化した。	引き続き時刻表を作成し、沿線の住民に配布する。久留米市城島地域のフィーダー系統路線と併せて広報等による継続した利用促進を地域、関係市町村と実施する。
西鉄バス久留米(株)	両筑苑前～北野～JR久留米	時刻表を沿線の住民に配布。路線情報が掲載された公共交通マップを各所で配布した。接続しているフィーダー系統路線の北野地域への時刻表全戸配布を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率80.5% 【実績】収支率81.8%(+1.3%) 目標を達成することができた。	引き続き時刻表を作成し、沿線の住民に配布する。久留米市北野地域のフィーダー系統路線と併せて広報等による継続した利用促進を地域、関係市町村と実施する。
西鉄バス久留米(株)	上原～草野駅前～JR久留米	時刻表を沿線の住民に配布。路線情報が掲載された公共交通マップを各所で配布した。バス車内に観光利用ができるクーポンを設置し、観光客の利用を促進した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率77.2% 【実績】収支率83.6%(+6.4%) 目標を達成することができた。	引き続き時刻表を作成し、沿線の住民に配布を行うなど、広報等による継続した利用促進を地域、関係市町村と実施するとともに、観光イベントと連携した利用促進活動を行っていく。
西鉄バス久留米(株)	JR久留米～久留米市役所～羽犬塚駅前	小学校にて乗り方教室を実施するとともに、時刻表を沿線の住民に配布。公共交通マップを各所で配布。路線情報が掲載された公共交通マップを各所で配布した。大型スポーツイベントにて、ノベルティー・チラシ配布など利用促進活動を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率74.6% 【実績】収支率69.6%(-5.0) 対前年比収入は増加したものの、経費の増加により目標収支率を達成できなかった。(前年▲5.8%)	時刻表を作成し、沿線の住民に全戸配布を行うなど、広報等による継続した利用促進を地域、関係市町村と実施する。そのほか官民と連携し、大型イベントの催し物を通して利用促進を進めていく。
西鉄バス筑豊(株)	飯塚～小竹上町～赤池工業団地	飯塚市民及び観光課へのバス利用の呼びかけ、赤池工業団地15社、近隣の伏原地区へのバス利用の呼びかけを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】収支率62.9% 【実績】収支率55.8%(-7.1%) 左記の取組を行い、対前年収入は増加したものの、目標収支率は達成できなかった。	幸袋～目尾間沿線住民からの要望を受け、経路変更を行い、新規需要の開拓を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西鉄バス筑豊(株)	新飯塚～飯塚～小竹上町～毛勝	飯塚市民及び観光客へのバス利用の呼びかけ、こたけ創造舎の利用者へのバス利用呼びかけ、小竹高等技術専門学校生へのバス利用の呼びかけを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】収支率48.3% 【実績】収支率43.1%( $-5.2\%$ ) 左記の取組を行ったが、対前年収入は減少し、目標収支率は達成できなかった。	令和元年10月1日に路線廃止
西鉄バス筑豊(株)	直方～高六・グローバルアリーナ～赤間営業所	バス車内に商品、サービスに関するリーフレットの吊り下げや高齢者向けのイベントで路線バスのPRを行った。また、交通会議で公共交通の現状を発信した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率40.4% 【実績】収支率32.7%( $-7.7\%$ ) 免許保有高齢者人口の増加による利用者の減少と公共交通に対する危機感の無さが原因と思われる。	免許保有高齢者人口の増加により公共交通全体が悪循環に陥っていることから、広報誌や交通会議等を活かして地域住民に公共交通の現状を発信し、能動的に考える機会を創出することで利用促進につなげる。
西鉄バス筑豊(株)	直方～京の上・鞍手車庫～遠賀川駅	バス車内に商品、サービスに関するリーフレットの吊り下げや高齢者向けのイベントや出前講座で路線バスのPRを行った。また、交通会議で公共交通の現状を発信した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率41.1% 【実績】収支率37.7%( $-3.4\%$ ) 免許保有高齢者人口の増加による利用者の減少と公共交通に対する危機感の無さが原因と思われる。	免許保有高齢者人口の増加により公共交通全体が悪循環に陥っていることから、広報誌や交通会議等を活かして地域住民に公共交通の現状を発信し、能動的に考える機会を創出することで利用促進につなげる。
西鉄バス筑豊(株)	直方～新入本村・鞍手車庫～遠賀川駅	バス車内に商品、サービスに関するリーフレットの吊り下げや高齢者向けのイベントや出前講座で路線バスのPRを行った。また、交通会議で公共交通の現状を発信した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 【目標】収支率47.0% 【実績】収支率35.9%( $-11.1\%$ ) 免許保有高齢者人口の増加による利用者の減少と公共交通に対する危機感の無さが原因と思われる。	免許保有高齢者人口の増加により公共交通全体が悪循環に陥っていることから、広報誌や交通会議等を活かして地域住民に公共交通の現状を発信し、能動的に考える機会を創出することで利用促進につなげる。
西鉄バス筑豊(株)	西鉄後藤寺～夏吉～金田駅の運行	目標収支率の達成に向け、バス車内へのリーフレットの吊り下げ、広報紙等を活用した利用促進PRを行った。また、広くバス利用を促すため市イベント時にもモビリティグッズの配布などPR活動を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 【目標】収支率36.7% 【実績】収支率25.1%( $-11.6\%$ ) 利用者の減少による運賃収入の減少が主な要因である。	①チラシ配布や広報紙、HP等で当該路線が赤字路線であり、沿線住民の利用が重要である旨の啓発を行う。 ②JR等の他の交通機関との連携を強化し、乗継改善を図る。 ③貨客混載など収益改善につながる新たな取組みの実施検討を行う。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西鉄バス筑豊(株)	真岡～後藤寺・メルクス～金田平原団地の運行	目標収支率の達成に向け、バス車内へのリーフレットの吊り下げ、広報紙等を活用した利用促進PRを行った。また、広くバス利用を促すため市イベント時にもモビリティグッズの配布などPR活動を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率36.7% 【実績】収支率40.1%(+3.4%) 目標を達成することが出来た。	①チラシ配布や広報紙、HP等で当該路線が赤字路線であり、沿線住民の利用が重要である旨の啓発を行う。 ②JR等の他の交通機関との連携を強化し、乗継改善を図る。 ③貨客混載など収益改善につながる新たな取組みの実施検討を行う。
西鉄バス筑豊(株)	宮若市役所～直方	高齢者向けのイベントでバス利用の呼びかけを行うとともに、沿線企業へエコ企業定期のPRを行った。また、HP等の媒体を活用しながら周知を図り、利用促進を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】収支率40.7% 【実績】収支率35.7(-5.0%) 昨年度より1.1%減(昨年36.9%)となった。主に高齢者の利用減少及び人口の減少が要因となっている。	令和2年9月末をもって廃止予定。
西鉄バス筑豊(株)	西鉄大隈～漆生～飯塚の運行	公共交通の利用促進を図るため、各団体の広報誌、ホームページ等で広報を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率75.7% 【実績】収支率73.4%(-2.3%) 目標を達成できなかった理由としては人口の減少及び利用者の減少が主な要因と考えられる。	公共交通の利用促進を図るため、各団体の広報誌、ホームページやイベント時にリーフレットなどの配布を行うことで広報を行い、利用実態に応じた運行ダイヤの検討を行う。
西鉄バス筑豊(株)	西鉄大隈～桂川駅～飯塚の運行	公共交通の利用促進を図るため、各団体の広報誌、ホームページ等で広報を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率64.6% 【実績】収支率87.2%(+22.6%) 目標を達成することができた。	公共交通の利用促進を図るため、各団体の広報誌、ホームページやイベント時にリーフレットなどの配布を行うことで広報を行い、利用実態に応じた運行ダイヤの検討を行う。
西鉄バス筑豊(株)	山野社宅～上三緒～飯塚の運行	公共交通の利用促進を図るため、各団体の広報誌、ホームページ等で広報を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率63.0% 【実績】収支率71.1%(+8.1%) ③の取り組みを実施することによって目標を達成することができた。	公共交通の利用促進を図るため、各団体の広報誌、ホームページやイベント時にリーフレットなどの配布を行うことで広報を行い、利用実態に応じた運行ダイヤの検討を行う。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西鉄バス筑豊(株)	西鉄後藤寺～中谷の運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・守恒までの系統延伸により、路線の利便性向上を図った(半年間)。</li> <li>・県内一斉キャンペーンに合わせて街頭啓発及び利用促進グッズの配布を行った。</li> <li>・イベント開催時に利用促進活動を行った。</li> <li>・公共交通の利用促進を図るため、広報紙、ホームページ等で利用啓発を行った。</li> <li>・地域会合での呼びかけや、乗り継ぎ時刻表や公共交通全体の時刻表を作成して掲示や配布など利用啓発を行った。</li> </ul>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	C 【目標】収支率55.5% 【実績】収支率38.7%(−16.8%) 半年間、守恒までの系統延伸を行い、路線の利便性を向上させることで収益は増加したが、経費も増加した為に収支は悪化した。	新規顧客獲得や現利用者の利用機会を増やすため、今後も広報活動に努めるとともに、広域で連携した取り組みを模索していき、収支率の改善を目指す。
西鉄バス筑豊(株)	西鉄後藤寺～川崎～めんべい添田町工場 の運行	利用促進を図るために利用促進チラシを作成し、公共施設等に配布した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【目標】収支率52.4% 【実績】収支率54.1%(+1.7%) 昨年度実績収支率55.0%よりも0.9%悪化したものの、目標は達成した。	今後も更なる利用促進のため、バス利用の啓発や広報を行い、利用者や収入の確保に努力したい。
西鉄バス筑豊(株)	みやわか線 宮田バス停～鞍手中学校前～鞍手駅	利用促進を図るためにバスガイドを全戸配布したほか、公共施設や医療機関、金融機関等に配布した	A 計画通り事業は適切に実施された	B 【目標】収支率47.0% 【実績】42.4%(−4.6%) 保護者の送迎等による中学生利用者の減少が大きな要因となっているほか、中学生の通学に対応したダイヤによる利便性の悪さにより一般利用者も減少していることが要因と思われる。	令和2年4月1日の運行から町内の公共交通の再編に伴い、本路線やダイヤの見直しを行う。併せて利用促進策を検討するため、見直し後も利用者の実態等を研究していく。
西鉄バス宗像(株)	東郷駅～波止場・東町～光陽台6丁目	沿線学校に対して新入学生を対象とした合同説明会において、路線・定期券の説明を実施し利用促進を図った。また、広報誌や新聞への広告掲載を通じて、バスの利用を促す広報活動を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率61.5% 【実績】実績74.6%(+13.1) 目標を達成することができた。	沿線学校の生徒をはじめとした沿線利用者に対して利用の呼びかけを継続すると共に、今後も引き続き、利用者の実態把握に努める必要がある。また、観光需要の取り込みは幹線系統の維持に有効であると考えられるため、世界遺産を含めた沿線の観光施設や自治体等と連携し、今後も更なる需要喚起の取組を進めていくことが必要である。



①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西鉄バス宗像(株)	東郷駅～宗像大社～神湊波止場	天神～神湊波止場間の特急バス往復乗車券と当該路線のうち宗像大社～道の駅の乗車券をセットにした企画切符の販売促進に取り組んだ。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 【目標】収支率98.8% 【実績】収支率67.7%( $-31.1\%$ ) 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界遺産に登録されてから2年が経過しており、その効果が薄れてきたことが要因であると思われる。	観光者の利用拡大に向けて、再度PR強化に努め、引き続き企画切符の販売促進に取り組んでいく。
西鉄バス宗像(株)	鐘崎車庫～宗像コモン・東郷～東郷駅	バスの利用促進チラシを作成し、7月に実施された池野地区でのイベント時に配布を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【目標】収支率63.4% 【実績】収支率65.8%( $+2.4\%$ ) 目標を達成することができた。	路線全体で過大な赤字は解消しており、引き続き沿線地域住民への利用促進に取り組んでいく。
西鉄バス宗像(株)	鐘崎車庫～ネオポリス・宗寿園～赤間営業所、鐘崎車庫～ネオポリス・くりえいと～赤間営業所	バスの利用促進チラシを作成し、7月に実施された池野地区でのイベント時に配布を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【目標】収支率59.3% 【実績】収支率56.7%( $-2.6\%$ ) 主に赤間駅での利用者が減少したことが要因であると思われる。	路線全体で過大な赤字は解消しており、引き続き沿線地域住民への利用促進に取り組んでいく。
西鉄バス大牟田(株)	上官線庄山系統 西鉄バス大牟田営業所～総合病院・上町～庄山の運行	事業評価結果を踏まえ、以下の取組を行うようにした。 (1) 沿線の工業団地や、戸建て住宅や集合団地、三池工業高校など沿線沿いの施設等に対してピンポイントに利用促進の呼びかけ、ポスティングを行い潜在的な利用ニーズの掘り起しを図る。(西鉄バス大牟田、大牟田市) (2) 大牟田市動物園の来園者を主なターゲットとして、「延命公園・動物園前」バス停の新設によりアクセスが向上したことをPRし、利用者の増加を図る。(西鉄バス大牟田、大牟田市)	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】収支率39.2% 【実績】収支率37.7%( $-1.5\%$ ) 大牟田市動物園の来園者を対象に、「延命公園・動物園前」バス停の新設によりアクセスが向上したことをPRするチラシの配布や大型商業施設でのチラシの配布、上官線沿線にある戸建て住宅や集合団地に、ポスティングを実施した。収支が悪化し、目標を達成できなかった。要因としては、沿線スーパーの閉店等が影響し利用者が減少、収支に影響がでたと考えられる。	収支が改善されるように、ポスティングやバス路線沿線で運転士体験の実施など、利用促進策に関する検討を行い、効果が見込まれる取組について、導入を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西鉄バス大牟田(株)	吉野線南関系統 西鉄バス大牟田営業所～南関の運行	<p>事業評価結果を踏まえ、以下の取組を行うようにした。</p> <p>(1) 沿線の工業団地や、戸建て住宅や集合団地、県立高校など沿線沿いの施設等に対してピンポイントに利用促進の呼びかけ、ポスティングを行い潜在的な利用ニーズの掘り起しを図る。(西鉄バス大牟田、大牟田市)</p> <p>(2) 九州新幹線との接続を意識したダイヤ改正を行うことにより、利用者の増加を図る。(大牟田市)</p> <p>(3) 大牟田市動物園の来園者を主なターゲットとして、「延命公園・動物園前」バス停の新設によりアクセスが向上したことをPRし、利用者の増加を図る。(西鉄バス大牟田、大牟田市)</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】収支率54.5% 【実績】収支率51.2%(−3.3%) 大牟田市動物園の来園者を対象に、「延命公園・動物園前」バス停の新設によりアクセスが向上したことをPRするチラシの配布や大型商業施設でのチラシの配布、吉野線沿線にある小学校でバス教室を実施した。(その他の取組みは未実施)収支が悪化し、目標を達成できなかった。要因としては、温泉施設廃止や、動物園バス乗り入れによる路線変更、及び小学生数の減少により利用者が減少し、収支に影響がでたと考えられる。	収支が改善されるように、ポスティングやバス路線沿線で運転士体験の実施など、利用促進策に関する検討を行い、効果が見込まれる取組について、導入を図る。
西鉄バス北九州(株)	香月営業所～鳥森・JR中間駅～筑鉄中間の運行	沿線住民に対し、バス時刻表や、バスの乗り方、沿線の商業施設等を記載したガイドブックを配布した。 また、香月営業所周辺で開催される各種イベントの告知と併せ中間線を利用し来場することの利便性を市ホームページに掲載し利用促進を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 収支率 輸送人員 【目標】57% 140人/日 【実績】37.1% 93人/日 【差引】△19.9% △47人 悪天候の影響や沿線高校の新入学生の定数削減により生徒数が減少したこと等が要因で利用者が減少し、目標値を下回った。	・モビリティマネジメント(バスの乗り方講習会等)を実施し当該路線の利用促進、及び認知度の向上を図る。 ・継続して香月営業所周辺で開催される各種イベントの告知と併せ中間線を利用し来場することの利便性を市ホームページ等でPRし利用促進を図る。 ・レガネット中間店とタイアップによる中間線利用促進策について、今後継続して協議する。 ・事業者との協議を踏まえ、所要時間、鉄道との接続を見直し、通勤・通学利用者の利便性を十分に考慮したダイヤ改正を実施する。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
JR九州バス(株)	山の神～久山～博多の運行 H26年～H30年 車両購入1台/年	沿線情報チラシをバスのイベントや沿線の祭りの際に配布を行った。 高校へ進学する学生に対しては、バスの乗り継ぎや定期券の発売について説明を行った。 また、バスロケーションシステム(多言語対応)を導入し、利便性向上を高めた。 ホームページをスマホ対応に全面リニューアルし、サイトを開設した。また、乗合路線の英語サイトもオープンした。乗合路線のページについては、バス停沿線の生活に直結する施設や沿線観光地の情報【沿線案内】を、路線系統毎に制作した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【目標】収支率56.6% 【実績】収支率60.6%(+4.0%) 運転士確保に伴う人件費増や燃料費高騰などにより経費が増加したが、取り組みの実施や福岡市内の利用者増により目標を達成した。	引き続き、利用促進のPRを行う等沿線自治体と連携してバスのご利用を促す利用促進活動に取り組む。また、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との再編や接続等の見直しを検討する。
JR九州バス(株)	直方～鞍手高校前～博多の運行 H26年～H30年 車両購入1台/年	沿線情報チラシをバスのイベントや沿線の祭りの際に配布を行った。 高校へ進学する学生に対しては、バスの乗り継ぎや定期券の発売について説明を行った。 また、バスロケーションシステム(多言語対応)を導入し、利便性向上を高めた。 ホームページをスマホ対応に全面リニューアルし、サイトを開設した。また、乗合路線の英語サイトもオープンした。乗合路線のページについては、バス停沿線の生活に直結する施設や沿線観光地の情報【沿線案内】を、路線系統毎に制作した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【目標】収支率46.9% 【実績】収支率48.6%(+1.7%) 運転士確保に伴う人件費増や燃料費高騰などにより経費が増加したが、取り組みの実施や福岡市内の利用者増により目標を達成した。	引き続き、利用促進のPRを行う等沿線自治体と連携してバスのご利用を促す利用促進活動に取り組む。また、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との再編や接続等の見直しを検討する。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
JR九州バス(株)	宮田～新飯塚の運行 H26年～H30年 車両購入1台/年	沿線情報テランをバスのイベントや沿線の祭りの際に配布を行った。 高校へ進学する学生に対しては、バスの乗り継ぎや定期券の発売について説明を行った。 また、バスロケーションシステム(多言語対応)を導入し、利便性向上を高めた。 ホームページをスマホ対応の全面リニューアルでサイト開設した。 観光施設への入場券と一体となった企画乗車券の発行し、観光需要の取り込みと地域商店街等へのバス時刻表の配架等によるバス利用の推進を行う予定であったが、計画は実行できなかった。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【目標】収支率35.9% 【実績】収支率28.4%(−7.5%) 取り組みが一部未実施となったことや少子高齢化により利用者が減少し、運転士確保に伴う人件費増や燃料費高騰などにより経費が増加したため、収支が悪化した。	平成31年9月末を以って廃止
JR九州バス(株)	直方～鞍手高校前・福丸・イオンモール福津～福間の運行 H26年～H30年 車両購入1台/年	沿線情報テランをバスのイベントや沿線の祭りの際に配布を行った。 また、バスロケーションシステム(多言語対応)を導入し、利便性向上を高めた。 ホームページをスマホ対応に全面リニューアルし、サイトを開設した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 【目標】収支率39.6% 【実績】収支率46.3%(+6.7%) 運転士確保に伴う人件費増や燃料費高騰などにより経費が増加したが、取り組みの実施や福津イオン循環系統の利用者増により目標を達成した。	平成31年9月末を以って廃止

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
JR九州バス(株)	直方～鞍手高校前～福丸の運行  H26年～H30年 車両購入1台/年	沿線情報チラシをバスのイベントや沿線の祭りの際に配布を行ったり、公共交通の現状を説明し、利用促進の啓発活動を行った。 また、バスロケーションシステム(多言語対応)を導入し、利便性向上を高めた。 ホームページをスマホ対応に全面リニューアルし、サイトを開設した。また、乗合路線の英語サイトもオープンした。乗合路線のページについては、バス停沿線の生活に直結する施設や沿線観光地の情報【沿線案内】を、路線系統毎に制作した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 【目標】収支率73.1% 【実績】収支率66.1%(-7.0%) 少子高齢化により利用者が減少し、運転士確保に伴う人件費増や燃料費高騰などにより経費が増加したため、収支が悪化した。	お客さまの利便性を考慮したダイヤの見直しによる効率的な運行を検討し、収支改善に努めていく。また、利用促進のPRを行う等沿線自治体と連携してバスのご利用を促す利用促進活動に取り組む。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年3月30日

九州運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今 後の改善点	評価結果	
佐賀県地域 公共交通活 性化協議会	昭和自動車(株) 佐賀市交通局 祐徳自動車(株) 西鉄バス佐賀(株) 西肥自動車(株) JR九州バス(株)	45系統  ※詳細は別添 一次評価のと おり	別添一次評価の とおり	A評価: 39系統 B評価: 6系統 C評価: 0系統	A評価: 6系統 B評価: 14系統 C評価: 25系統  【参考: 前年度】 A評価: 14系統 B評価: 10系統 C評価: 26系統	別添一次評価 のとおり	<p>・事業者と沿線自治体が協働してイベントでの公共交通機関利用の呼びかけ実施、企画乗車券の販売促進、地元ケーブルテレビでの沿線地域魅力紹介、時刻表等のチラシ配布、待合環境の整備、自治体による高齢者へのバス・タクシー乗車券の交付等利用促進に取り組まれていることを評価します。</p> <p>・生産性向上に関するWG等を地域毎に開催して、検討や意見交換を行い、関係市町村及び事業者が目標の達成に向け取り組みを行っていくことの共通認識が図られていることを評価します。引き続き、地域間幹線系統における生産性向上の取り組みの着実な実施を期待します。</p> <p>・佐賀県地域公共交通網形成計画を策定し、県内の交通政策に主体的に取り組まれていることを高く評価します。今後も各市町村の交通計画において地域間幹線系統についても検討・取り組みの対象となるよう、働きかけて行くことを期待します。</p> <p>・生活路線と観光利用は必ずしも一致しないこともありますので、利用者の実態把握、利用者増減の要因分析を行い、地域特性を踏まえた対応策を考えていくことが重要と考えます。今後も県と市町村が連携を図り、事業者や住民と共に持続可能な効率的で利便性の高いネットワークが維持改善されることを期待します。</p>	評価指標 【収支率】 【輸送人員】 又は 【経常収益】 【輸送人員】

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月24日

協議会名:佐賀県地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

※30年度の数値、西鉄バス佐賀の輸送人員は参考値

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※ A:達成、B一部未達成、C未達成	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
昭和自動車㈱ 伊万里線	大手口～徳須恵～伊万里系統の運行。 R1 車両購入1台 (伊万里・北波多に導入) H30 車両購入1台 (伊万里・北波多に導入) H25 車両購入1台	生産性向上の取組として伊万里市広報4月号で路線バス特集を掲載した。事業者全体の取組としては、利便性向上のため、「南波多郷学館下」と「府招上」バス停に上屋を設置した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 【収支率】 目標:64.0% 実績:51.4% (30年実績:56.0%) 【輸送人員】 目標:71,353人 実績:69,958人 (30年実績:70,736人)	運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も前年度より悪化している。昨年度に引き続き枝線系統を含めた事業計画の見直しを自治体と協議する。 また、事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。
昭和自動車㈱ 野元・呼子線	唐津～野元～呼子の運行。 R1車両購入1台 (野元・呼子、小加倉・呼子に導入)	H30.4.1に名護屋循環を再編し、本年度より全期運行となった。生産性向上の取組として、事業者と自治体が協働しオルレ参加者の公共交通利用の呼び掛けを計画したが実施できなかった。	B 事業が計画通りに実施されていない点があった。	B 【収支率】 目標:66.4% 実績:57.5% (30年実績:59.3%) 【輸送人員】 目標:13,748人 実績:22,630人 (30年実績:23,058人) ※半期運行のため2倍して比較	昨年4月に再編を行ったが、運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も単純比較はできないが前年度の2倍と比較しても悪化している。沿線の豊富な観光資源を活用した生産性向上の取組を事業者、自治体が共同し実施することや、事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。
昭和自動車㈱ 小加倉・呼子線	唐津～小加倉～呼子の運行。 R1車両購入1台 (野元・呼子、小加倉・呼子に導入)	H30.4.1に名護屋循環を再編し、本年度より全期運行となった。生産性向上の取組として、事業者と自治体が協働しオルレ参加者の公共交通利用の呼び掛けを計画したが実施できなかったが、自治体によるバス乗車証明書提示での温泉施設の割引制度や施設内での時刻表掲示を行った。	B 事業が計画通りに実施されていない点があった。	B 【収支率】 目標:81.2% 実績:58.1% (30年実績:59.8%) 【輸送人員】 目標:9,700人 実績:12,410人 (30年実績:12,810人) ※半期運行のため2倍して比較	昨年4月に再編を行ったが、運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も単純比較はできないが前年度の2倍と比較しても悪化している。沿線の豊富な観光資源を活用した生産性向上の取組を事業者、自治体が共同し実施することや、事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。
昭和自動車㈱ 七山線	大手口～浜崎四つ角・なののゆ～細川系統の運行。 H29 車両購入1台 H26 車両購入2台	浜崎駅改修に向けて引き続き協議を行っている。生産性向上の取組として、事業者と自治体が協働し、販売中である沿線の温泉施設の企画キップの販売促進チラシの作成を計画したが、実施することはできなかった。	B 事業が計画通りに実施されていない点があった。	C 【収支率】 目標:44.2% 実績:35.9% (30年実績:36.7%) 【輸送人員】 目標:36,029人 実績:33,644人 (30年実績:34,342人)	運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も年々悪化している。沿線の豊富な観光資源を活用した生産性向上の取組を事業者、自治体が共同し実施することや、事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※ A:達成、B一部未達成、C未達成	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
昭和自動車㈱ 多久線	佐賀駅BC～徳万・小城～多久駅前 系統の運行。 R1 車両購入1台 (多久、唐津・佐賀・中極に導入) H29 車両購入1台 (多久、唐津・佐賀・中極に導入) H27 車両購入1台	多久駅に接続する枝線系統や重複する唐津佐賀線も含め全体的な路線再編を行い効率的な運行を目指すべく引き続き協議を行っている。 生産性向上の取組として、自治体によるシルバーパス券の周知を行ったり、地元ケーブルテレビで当該系統の魅力を発信する番組の制作を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 【収支率】 目標:76.8% 実績:60.3% (30年実績:62.0%) 【輸送人員】 目標:63,896人 実績:40,445人 (30年実績:41,252人)	運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も年々悪化している。事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、パスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。
昭和自動車㈱ 三瀬線	佐賀駅BC～神崎駅前・三瀬温泉～三瀬車庫前系統の運行。 R1 車両購入1台 H30 車両購入1台	モード転換を含めた大規模な路線再編を自治体と協議した。また、生産性向上の取組として、自治体によるシルバーパス券の周知を行ったり、地元ケーブルテレビで当該系統の魅力を発信する番組の制作を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【収支率】 目標:70.9% 実績:47.6% (30年実績:49.9%) 【輸送人員】 目標:25,982人 実績:28,518人 (30年実績:27,826人)	運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も年々悪化している。事業者と関係自治体が協議し、R2.4にモード転換を含めた大規模な再編を行う予定。
昭和自動車㈱ 北山線	北山中原～鷹の羽・古湯温泉～辻の堂系統の運行。 H30 車両購入1台 H29 車両購入1台 (2台とも北山、古湯、中極に導入)	モード転換を含めた大規模な路線再編を自治体と協議した。また、生産性向上の取組として、自治体によるシルバーパス券の周知を行ったり、地元ケーブルテレビで当該系統の魅力を発信する番組の制作を行った。また、温泉利用券がセットになった企画キップのチラシを作成し観光案内所等へ配架した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 【収支率】 目標:65.3% 実績:54.3% (30年実績:55.7%) 【輸送人員】 目標:45,825人 実績:45,355人 (30年実績:46,072人)	運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員は昨年度は増加したが本年度は減少した。事業者と関係自治体が協議し、R2.4にモード転換を含めた大規模な再編を行う予定。
昭和自動車㈱ 古湯線	フォレスタふじ～尼寺・川上橋～辻の堂系統の運行。 H30 車両購入1台 H29 車両購入1台 (2台とも北山、古湯、中極に導入)	モード転換を含めた大規模な路線再編を自治体と協議した。また、生産性向上の取組として、自治体によるシルバーパス券の周知を行ったり、地元ケーブルテレビで当該系統の魅力を発信する番組の制作を行った。また、温泉利用券がセットになった企画キップのチラシを作成し観光案内所等へ配架した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 【収支率】 目標:74.8% 実績:64.2% (30年実績:66.0%) 【輸送人員】 目標:40,312人 実績:39,815人 (30年実績:40,502人)	運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も年々悪化している。事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、パスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。
昭和自動車㈱ 唐津・佐賀線	大手口～多久駅前・片田江～佐賀駅BC系統の運行。 R1 車両購入1台 (多久、唐津・佐賀・中極に導入) H26 車両購入2台 H25 車両購入1台	長大であり、ほぼJRと重複している本路線について接続枝線や多久佐賀線を含め全体的な路線再編を行うべく関係機関と協議を続けている。 また、生産性向上の取組として、自治体によるシルバーパス券の周知を行ったり、地元ケーブルテレビで当該系統の魅力を発信する番組の制作を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 【収支率】 目標:61.2% 実績:48.4% (30年実績:49.6%) 【輸送人員】 目標:141,929人 実績:129,004人 (30年実績:131,250人)	運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も年々悪化している。事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、パスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。



①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※ A:達成、B一部未達成、C未達成	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
昭和自動車㈱ 中樞線	小城～中樞・尼寺～辻の堂系統の運行。 R1 車両購入1台 (多久・唐津・佐賀・中樞に導入) H30 車両購入1台 H29 車両購入1台 (2台とも北山、古湯、中樞に導入)	沿線の高校や短期大学の利用が多い路線。生産性向上の取組として、自治体によるシルバーパス券の周知を行ったり、地元ケーブルテレビで当該系統の魅力を発信する番組の制作を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 【収支率】 目標:54.2% 実績:46.8% (30年実績:48.0%) 【輸送人員】 目標:101,491人 実績:97,197人 (30年実績:98,863人)	運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も年々悪化している。事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。
昭和自動車㈱ 多久・武雄線	多久市役所前～北部小前・本多久～竹下町系統の運行。 H27 車両購入1台	モード転換を含めた路線再編を自治体と協議した。また、生産性向上の取組として、自治体による高齢者へのバス・タクシー乗車券の交付を行ったり、複数事業者が乗り入れるバス停の共通ポール、上屋の設置を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 【収支率】 目標:53.9% 実績:42.2% (30年実績:44.1%) 【輸送人員】 目標:27,084人 実績:25,457人 (30年実績:27,010人)	運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も年々悪化している。R2.4からは朝1便を除きジャンボタクシーにモード転換するだけでなく、利用増の施策として部活動生を取り込むため夕方の便を1便増加する。事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。
昭和自動車㈱ 有浦・仮屋線	金の手～仮屋～玄海エネルギーパーク系統の運行。 R1 車両購入1台 (有浦・仮屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入)	H30.4.1に仮屋を再編し、本年度より全期運行となった。生産性向上の取組として、自治体によるバス乗車証明書提示での温泉施設の割引制度や施設内での時刻表掲示を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【収支率】 目標:73.7% 実績:94.7% (H30年実績:97.7%) 【輸送人員】 目標:5,118人 実績:16,974人 (H30年実績:17,376人) ※半期運行のため2倍で比較	昨年4月に再編を行ったが、運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も単純比較はできないが前年度の2倍と比較しても悪化している。沿線の豊富な観光資源を活用した生産性向上の取組を事業者、自治体が共同実施することや、事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。
昭和自動車㈱ 湊線	大手口～みなと園～呼子系統の運行。 H30 車両購入2台 (湊、呼子に導入) H29 車両購入1台 (湊、呼子、有浦、切木、北波多に導入)	沿線に豊富な観光資源がある路線。生産性向上の取組として、ホームページで沿線の観光スポット紹介を行い利用促進を図るべく計画したが、実施することはできなかった。	B 事業が計画通りに実施されていない点があった。	B 【収支率】 目標:75.4% 実績:56.2% (30年実績:57.7%) 【輸送人員】 目標:50,517人 実績:51,508人 (30年実績:52,264人)	昨年4月に再編を行い、目標輸送人員は達成したが、運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により目標収支率は達成できなかった。沿線の豊富な観光資源を活用した生産性向上の取組を事業者、自治体が共同実施することや、事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※ A:達成、B一部未達成、C未達成	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
昭和自動車㈱ 呼子線	宝当棧橋～岩野・打上～呼子系統の運行。 R1 車両購入1台 (有浦・仮屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入) H30 車両購入2台 (湊、呼子に導入) H29 車両購入2台 (1台は湊、呼子、有浦、切木、北波多に導入 1台は呼子、有浦、切木に導入) H27 車両購入2台	国内外を問わず観光客が多い路線。生産性向上の取組として、沿線に商業施設や病院が多い当該系統において、目的別時刻表を作成し全戸配布するよう計画したが実施することはできなかった。	B 事業が計画通りに実施されていない点があった。	C 【収支率】 目標:82.3% 実績:52.0% (30年実績:53.4%) 【輸送人員】 目標:105,092人 実績:100,754人 (30年実績:102,197人)	運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も年々悪化している。事業者と自治体が協議し、過大な運行本数の見直しを行い収支率の改善を図る。また、事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。
昭和自動車㈱ 有浦・入野線	金の手～入野系統の運行。 R1 車両購入1台 (有浦・仮屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入)	H30.4.1に有浦線を再編し、本年度より全期運行となった。生産性向上の取組として、自治体によるバス乗車証明書提示での温泉施設の割引制度や施設内での時刻表掲示を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【収支率】 目標:86.2% 実績:44.9% (H30年実績:46.2%) 【輸送人員】 目標:12,926人 実績:13,614人 (H30年実績:14,002人) ※半期運行のため2倍して比較	運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も年々悪化している。事業者と自治体が協議し、過大な運行本数の見直しを行い収支率の改善を図る。また、事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。
昭和自動車㈱ 切木線	大手口～切子・古保志気～入野系統の運行。 R1 車両購入1台 (有浦・仮屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入) H29 車両購入2台 (1台は湊、呼子、有浦、切木、北波多に導入、1台は呼子、有浦、切木に導入)	生産性向上の取組として、当該系統の日祝便の運行本数を適正化した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 【収支率】 目標:76.3人 実績:61.9% (30年実績:67.2%) 【輸送人員】 目標:54,119人 実績:51,554人 (30年実績:54,838人)	本年4月に枝線系統の再編を行い、当該系統も日祝便の効率化を図ったが、運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も悪化している。事業者と自治体が協議し過大な運行本数の適正化を図る。また、事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。
昭和自動車㈱ 北波多線	大手口～今組・山本～市民病院きたはた系統の運行。 R1 車両購入1台 (伊万里・北波多に導入) H29 車両購入1台 (湊、呼子、有浦、切木、北波多に導入)	沿線に商業施設や病院があり、また、高校への通学利用が多い路線。生産性向上の取組として、目的別時刻表を作成し全戸配布する計画を策定したが、実施することはできなかった。	B 事業が計画通りに実施されていない点があった。	A 【収支率】 目標:55.0% 実績:58.0% (30年実績:59.3%) 【輸送人員】 目標:40,100人 実績:46,251人 (30年実績:48,379人)	運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員は昨年度は増加したが本年度は減少した。生産性向上の取組として沿線に多くの商業施設や病院が隣接するため目的別時刻表を作成したり、事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入や系統ナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※ A:達成、B一部未達成、C未達成	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
昭和自動車株 有浦・入野線	大手口～有浦上～金の手系統の運行。 R1 車両購入1台 (有浦・仮屋、呼子、有浦・入野、切木、唐津・入野に導入)	H30.4.1に有浦線と仮屋線を再編し、本年度より全期運行となった。生産性向上の取組として、自治体によるバス乗車証明書提示での温泉施設の割引制度や施設内での時刻表掲示を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【収支率】 目標: 50.9% 実績: 44.9% (H30実績: 46.3%) 【輸送人員】 目標: 15,732人 実績: 48,175人 (H30年実績: 48,968人) ※半期運行のため2倍して比較	昨年4月に再編を行ったが、運転士採用強化による人件費の増大、路線拡大に伴う燃料使用量の増加による燃料費の増大により収支は悪化し、輸送人員も単純比較はできないが前年度の2倍と比較すると目標を達成した。沿線の豊富な観光資源を活用した生産性向上の取組を事業者、自治体が共同し実施することや、事業者全体の取組として、ICカード普及活動、バス運行情報のオープンデータ化、バスロケーションシステムの導入やシステムナンバリング化の取組を行い利便性向上による利用者増を図る。
佐賀市交通局 犬井道線	佐賀駅BC～唐人町・大崎～大説間系統の運行。 H25～R元 車両購入1台/年 (犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)に導入)	ICカード(nimocca)の利用促進として、HP掲載やチラシ配布(市内中学・高校)を行った。また、H30年に導入したバスロケーションシステムについてHPで周知を行うとともに全バス停の時刻表にQRコードを設置したほか佐賀県の配信システムにてオープンデータ化を行い、Googleで時刻検索などができるようになるなど利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【収支率】 目標: 71.0% 実績: 60.2% (30年実績: 65.5%) 【輸送人員】 目標: 142,804人 実績: 166,098人 (30年実績: 160,363人)	ICカードやICカード搭載の定期券・ノリノリワイド・昼のリワイドの販売促進によって輸送人員が大幅に増加している路線。令和2年3月から希望者に対してワンコイン・シルバーパスのICカード化を実施する。また、バスロケーションシステムサービスの利用促進に努めることで利用者の利便性を向上させるほか、沿線の龍谷高校などへバスで通学してもらえるよう新高校生に呼びかけるなどによってさらなる利用者の増加を図る。
佐賀市交通局 早津江線	佐賀駅BC～唐人町・諸富橋～早津江系統の運行。 H25～R元 車両購入1台/年 (犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)に導入)	ICカード(nimocca)の利用促進として、HP掲載やチラシ配布(市内中学・高校)を行った。また、H30年に導入したバスロケーションシステムについてHPで周知を行うとともに全バス停の時刻表にQRコードを設置したほか佐賀県の配信システムにてオープンデータ化を行い、Googleで時刻検索などができるようになるなど利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【収支率】 目標: 68.5% 実績: 66.4% (30年実績: 71.2%) 【輸送人員】 目標: 146,006人 実績: 183,985人 (30年実績: 179,510人)	ICカードやICカード搭載の定期券・ノリノリワイド・昼のリワイドの販売促進によって輸送人員が大幅に増加している路線。令和2年3月から希望者に対してワンコイン・シルバーパスのICカード化を実施する。また、バスロケーションシステムサービスの利用促進に努めることで利用者の利便性を向上させるほか、沿線の佐賀東高校や龍谷高校などへバスで通学してもらえるよう新高校生に呼びかけるなどによってさらなる利用者の増加を図る。
佐賀市交通局 橋津線	佐賀駅BC～朝日町・諸富橋～早津江系統の運行。 H25～R元 車両購入1台/年 (犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)に導入)	ICカード(nimocca)の利用促進として、HP掲載やチラシ配布(市内中学・高校)を行った。また、H30年に導入したバスロケーションシステムについてHPで周知を行うとともに全バス停の時刻表にQRコードを設置したほか佐賀県の配信システムにてオープンデータ化を行い、Googleで時刻検索などができるようになるなど利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【収支率】 目標: 48.6% 実績: 61.6% (30年実績: 53.3%) 【輸送人員】 目標: 55,268人 実績: 69,338人 (30年実績: 62,261人)	ICカードやICカード搭載の定期券・ノリノリワイド・昼のリワイドの販売促進によって輸送人員が大幅に増加している路線。令和2年3月から希望者に対してワンコイン・シルバーパスのICカード化を実施する。また、バスロケーションシステムサービスの利用促進に努めることで利用者の利便性を向上させるほか、沿線の龍谷高校などへバスで通学してもらえるよう新高校生に呼びかけるなどによってさらなる利用者の増加を図る。
佐賀市交通局 金立(来迎寺)線	県庁前・佐嘉神社前～尼寺・来迎寺～運転免許センター系統の運行。 H25～R元 車両購入1台/年 (犬井道、早津江、橋津、金立(来迎寺)に導入)	ICカード(nimocca)の利用促進として、HP掲載やチラシ配布(市内中学・高校)を行った。また、H30年に導入したバスロケーションシステムについてHPで周知を行うとともに全バス停の時刻表にQRコードを設置したほか佐賀県の配信システムにてオープンデータ化を行い、Googleで時刻検索などができるようになるなど利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【収支率】 目標: 66.8% 実績: 72.2% (30年実績: 61.8%) 【輸送人員】 目標: 85,467人 実績: 113,899人 (30年実績: 92,504人)	ICカードやICカード搭載の定期券・ノリノリワイド・昼のリワイドの販売促進によって輸送人員が大幅に増加している路線。令和2年3月から希望者に対してワンコイン・シルバーパスのICカード化を実施する。また、バスロケーションシステムサービスの利用促進に努めることで利用者の利便性を向上させるほか、バスで通学してもらえるよう新高校生に呼びかけるなどによってさらなる利用者の増加を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※ A:達成、B一部未達成、C未達成	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
佐賀市交通局 金立(いこい)線	<p>県庁前・佐嘉神社前～尼寺・金立憩い～運転免許センター系統の運行。</p> <p>H25～R元 車両購入1台/年 (金立(いこい)、広江、東与賀、西与賀に導入)</p>	ICカード(nimocca)の利用促進として、HP掲載やチラシ配布(市内中学・高校)を行った。また、H30年に導入したバスロケーションシステムについてHPで周知を行うとともに全バス停の時刻表にQRコードを設置したほか佐賀県の配信システムにてオープンデータ化を行い、Googleで時刻検索などができるようになるなど利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【収支率】 目標: 73.6% 実績: 69.4% (30年実績: 69.4%) 【輸送人員】 目標: 125,016人 実績: 146,158人 (30年実績: 131,759人)	ICカードやICカード搭載の定期券・ノリノリワイド・屋のりワイドの販売促進によって輸送人員が大幅に増加している路線。令和2年3月から希望者に対してワンコイン・シルバーパスのICカード化を実施する。また、バスロケーションシステムサービスの利用促進に努めることで利用者の利便性を向上させるほか、バスで通学してもらえるよう新高校生に呼びかけるなどによってさらなる利用者の増加を図る。
佐賀市交通局 広江線	<p>佐賀駅BC～中島・広江～和崎系統の運行。</p> <p>H25～R元 車両購入1台/年 (金立(いこい)、広江、東与賀、西与賀に導入)</p>	ICカード(nimocca)の利用促進として、HP掲載やチラシ配布(市内中学・高校)を行った。また、H30年に導入したバスロケーションシステムについてHPで周知を行うとともに全バス停の時刻表にQRコードを設置したほか佐賀県の配信システムにてオープンデータ化を行い、Googleで時刻検索などができるようになるなど利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【収支率】 目標: 64.8% 実績: 59.6% (30年実績: 54.7%) 【輸送人員】 目標: 116,143人 実績: 153,521人 (30年実績: 121,553人)	ICカードやICカード搭載の定期券・ノリノリワイド・屋のりワイドの販売促進によって輸送人員が大幅に増加している路線。令和2年3月から希望者に対してワンコイン・シルバーパスのICカード化を実施する。また、バスロケーションシステムサービスの利用促進に努めることで利用者の利便性を向上させるほか、バスで通学してもらえるよう新高校生に呼びかけるなどによってさらなる利用者の増加を図る。
佐賀市交通局 東与賀線	<p>佐賀駅BC～大財町・佐賀大学前～大野系統の運行。</p> <p>H25～R元 車両購入1台/年 (金立(いこい)、広江、東与賀、西与賀に導入)</p>	ICカード(nimocca)の利用促進として、HP掲載やチラシ配布(市内中学・高校)を行った。また、H30年に導入したバスロケーションシステムについてHPで周知を行うとともに全バス停の時刻表にQRコードを設置したほか佐賀県の配信システムにてオープンデータ化を行い、Googleで時刻検索などができるようになるなど利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【収支率】 目標: 87.3% 実績: 81.8% (30年実績: 84.1%) 【輸送人員】 目標: 135,873人 実績: 152,416人 (30年実績: 141,959人)	ICカードやICカード搭載の定期券・ノリノリワイド・屋のりワイドの販売促進によって輸送人員が大幅に増加している路線。令和2年3月から希望者に対してワンコイン・シルバーパスのICカード化を実施する。また、バスロケーションシステムサービスの利用促進に努めることで利用者の利便性を向上させるほか、沿線の佐賀大学などへバスで通学してもらえるよう新入生に呼びかけるなどによってさらなる利用者の増加を図る。
佐賀市交通局 蓮池線	<p>佐賀駅BC～唐人町・東田代～橋津系統の運行。</p> <p>H25～R元 車両購入1台/年 (蓮池、嘉瀬新町、徳万に導入)</p>	ICカード(nimocca)の利用促進として、HP掲載やチラシ配布(市内中学・高校)を行った。また、H30年に導入したバスロケーションシステムについてHPで周知を行うとともに全バス停の時刻表にQRコードを設置したほか佐賀県の配信システムにてオープンデータ化を行い、Googleで時刻検索などができるようになるなど利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 【収支率】 目標: 60.3% 実績: 54.8% (30年実績: 52.8%) 【輸送人員】 目標: 86,037人 実績: 89,034人 (30年実績: 80,222人)	ICカードやICカード搭載の定期券・ノリノリワイド・屋のりワイドの販売促進によって輸送人員が大幅に増加している路線。令和2年3月から希望者に対してワンコイン・シルバーパスのICカード化を実施する。また、バスロケーションシステムサービスの利用促進に努めることで利用者の利便性を向上させるほか、バスで通学してもらえるよう新高校生に呼びかけるなどによってさらなる利用者の増加を図る。
佐賀市交通局 嘉瀬新町線	<p>佐賀駅BC～医療センター・嘉瀬新町～くぼた特産物直売所系統の運行。</p> <p>H25～R元 車両購入1台/年 (蓮池、嘉瀬新町、徳万に導入)</p>	ICカード(nimocca)の利用促進として、HP掲載やチラシ配布(市内中学・高校)を行った。また、H30年に導入したバスロケーションシステムについてHPで周知を行うとともに全バス停の時刻表にQRコードを設置したほか佐賀県の配信システムにてオープンデータ化を行い、Googleで時刻検索などができるようになるなど利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【収支率】 目標: 57.2% 実績: 59.0% (30年実績: 55.5%) 【輸送人員】 目標: 53,276人 実績: 62,593人 (30年実績: 52,199人)	ICカードやICカード搭載の定期券・ノリノリワイド・屋のりワイドの販売促進によって輸送人員が大幅に増加している路線。令和2年3月から希望者に対してワンコイン・シルバーパスのICカード化を実施する。また、バスロケーションシステムサービスの利用促進に努めることで利用者の利便性を向上させるほか、沿線の佐賀女子高校などへバスで通学してもらえるよう新高校生に呼びかけるなどによってさらなる利用者の増加を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※ A:達成、B一部未達成、C未達成	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
佐賀市交通局 徳万線	佐賀駅BC～医療センター・徳万～くぼた特産物直売所系統の運行。  H25～R元 車両購入1台/年 (蓮池、嘉瀬新町、徳万に導入)	ICカード(nimocca)の利用促進として、HP掲載やチラシ配布(市内中学・高校)を行った。また、H30年に導入したバスロケーションシステムについてHPで周知を行うとともに全バス停の時刻表にQRコードを設置したほか佐賀県の配信システムにてオープンデータ化を行い、Googleで時刻検索などができるようになるなど利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 【収支率】 目標:46.6% 実績:53.4% (30年実績:51.0%)  【輸送人員】 目標:47,684人 実績:50,331人 (30年実績:48,279人)	ICカードやICカード搭載の定期券・ノリノリワイド・屋ノリワイドの販売促進によって輸送人員が大幅に増加している路線。令和2年3月から希望者に対してワンコイン・シルバーパスのICカード化を実施する。また、バスロケーションシステムサービスの利用促進に努めることで利用者の利便性を向上させるほか、沿線の佐賀女子高校などへバスで通学してもらえるよう高校生に呼びかけるなどによってさらなる利用者の増加を図る。
祐徳自動車㈱ 佐賀線	祐徳神社前～山口駅前・好生館～佐賀駅バスセンター系統の運行。車両減価償却等国庫補助金によりノンステップバス1台を購入	ICカード(nimoca)及びバスロケーションシステムを導入し新規利用者の取込みを図った。また、運賃表示器及び音声案内を多言語化することで、訪日外国人が利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された	C 【収支率】 目標:50.2% 実績:39.33% (30年実績:44.0%)  【輸送人員】 目標:89,299人 実績:87,891人 (30年実績:87,586人)	インバウンドの増加等によって輸送人員が増加している路線。病院、学校、ホテル及び電話等で問合せのあった方へ全線時刻表並びに最寄りのバス停の時刻表を配布するほか、ICカードやバスロケーションシステムの利用促進に努める。
祐徳自動車㈱ 武雄線	下西山車庫～山口駅前・好生館～佐賀駅バスセンター系統の運行	ICカード(nimoca)及びバスロケーションシステムを導入し新規利用者の取込みを図った。また、運賃表示器及び音声案内を多言語化することで、訪日外国人が利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された	C 【収支率】 目標:53.8% 実績:42.19% (30年実績:45.0%)  【輸送人員】 目標:96,855人 実績:96,080人 (30年実績:90,803人)	インバウンドの増加等によって輸送人員が増加している路線。病院、学校、ホテル及び電話等で問合せのあった方へ全線時刻表並びに最寄りのバス停の時刻表を配布するほか、ICカードやバスロケーションシステムの利用促進に努める。
祐徳自動車㈱ 嬉野線	祐徳神社前～嬉野市役所・医療センター～湯の田系統の運行	ICカード(nimoca)及びバスロケーションシステムを導入し新規利用者の取込みを図った。また、運賃表示器及び音声案内を多言語化することで、訪日外国人が利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された	C 【収支率】 目標:57.2% 実績:44.45% (30年実績:47.6%)  【輸送人員】 目標:65,615人 実績:64,723人 (30年実績:61,071人)	インバウンドの増加等によって輸送人員が増加している路線。病院、学校、ホテル及び電話等で問合せのあった方へ全線時刻表並びに最寄りのバス停の時刻表を配布するほか、ICカードやバスロケーションシステムの利用促進に努める。
祐徳自動車㈱ 吉田線	中川～吉田～湯の田系統の運行。車両減価償却等国庫補助金によりノンステップバス1台を購入	ICカード(nimoca)及びバスロケーションシステムを導入し新規利用者の取込みを図った。また、運賃表示器及び音声案内を多言語化することで、訪日外国人が利用しやすくなる環境整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施された	C 【収支率】 目標:51.2% 実績:39.87% (30年実績:44.8%)  【輸送人員】 目標:37,182人 実績:36,093人 (30年実績:35,887人)	インバウンドの増加等によって輸送人員が増加している路線。病院、学校、ホテル及び電話等で問合せのあった方へ全線時刻表並びに最寄りのバス停の時刻表を配布するほか、ICカードやバスロケーションシステムの利用促進に努める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※ A:達成、B一部未達成、C未達成	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
祐徳自動車㈱ 祐徳線	祐徳神社前～嬉野市役所～下西山 車庫系統の運行。車両減価償却等 国庫補助金によりノンステップバス1 台を購入	ICカード(nimoca)及びバスロケーションシステムを導入し新規利用 者の取込みを図った。また、運賃表示器及び音声案内を 多言語化することで、訪日外国人が利用しやすくなる環境 整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施 された	B 【収支率】 目標:60.8% 実績:45.68% (30年実績:50.7%) 【輸送人員】 目標:53,421人 実績:57,435人 (30年実績:52,167人)	インバウンドの増加等によって輸送人員が増加している 路線。病院、学校、ホテル及び電話等で問合せのあった 方へ全線時刻表並びに最寄りのバス停の時刻表を配布 するほか、ICカードやバスロケーションシステムの利用促 進に努める。
祐徳自動車㈱ 太良線	鹿島バスセンター～糸岐本町～県 界系統の運行。車両減価償却等 国庫補助金によりノンステップバス1台 を購入	ICカード(nimoca)及びバスロケーションシステムを導入し新規利用 者の取込みを図った。また、運賃表示器及び音声案内を 多言語化することで、訪日外国人が利用しやすくなる環境 整備に努めた。	A 計画通り事業は適切に実施 された	C 【収支率】 目標:48.6% 実績:37.77% (30年実績:42.0%) 【輸送人員】 目標:48,551人 実績:47,248人 (30年実績:47,016人)	インバウンドの増加等によって輸送人員が増加している 路線。病院、学校、ホテル及び電話等で問合せのあった 方へ全線時刻表並びに最寄りのバス停の時刻表を配布 するほか、ICカードやバスロケーションシステムの利用促 進に努める。
西鉄バス佐賀㈱ 久留米～鳥栖線	JR久留米～久留米警察署～西鉄 鳥栖系統の運行。	2019年5月鳥栖市立旭小学校にて小学校3年生約120名を 対象にバス乗り方教室および周遊体験を実施。またバス 車内にて、沿線のイベント情報の掲載を継続実施、久留米 市内でバス利用を呼び掛けるポスティングの実施、久留米 でのバス・鉄道フェスタでの利用促進の呼び掛け、定期的 に停留所への吊り下げ時刻表の掲出等を行い、利用者増 へ向けた取組を行った。	A 計画通り事業は適切に実施 された	C 【収支率】 目標:74.7% 実績:66.0% (30年実績:70.8%) 【輸送人員】 30年実績:145,818人 実績:148,848人	輸送人員が増加している路線。久留米警察署前バス停を中心 に増加傾向。バス教室の実施、沿線のイベント情報のバス車内 への掲載、西鉄グループで毎月実施している天神・博多・久留 米地区でのチラシ配布への継続参加、久留米でのバス・鉄道 フェスタでの利用促進の呼び掛け、停留所への吊り下げ時刻表 の掲出等の増収活動の継続に加え、事業者と沿線自治体が連 携した住民ニーズの把握やバス利用を促す周知等に取り組む 必要がある。
西鉄バス佐賀㈱ 鳥栖～神埼線	鳥栖駅～目達原系統の運行。	2019年5月鳥栖市立旭小学校にて小学校3年生約120名を 対象にバス乗り方教室および周遊体験を実施。またバス 車内にて、沿線のイベント情報の掲載を継続実施、定期的 に停留所への吊り下げ時刻表の掲出等を行い、利用者増 へ向けた取組を行った。	A 計画通り事業は適切に実施 された	C 【収支率】 目標:52.6% 実績:42.9% (30年実績:47.3%) 【輸送人員】 30年実績:45,027人 実績:45,767人	輸送人員が増加している路線。バス教室の実施、沿線のイベ ント情報のバス車内への掲載、西鉄グループで毎月実施してい る天神・博多・久留米地区でのチラシ配布への継続参加、停留 所への吊り下げ時刻表の掲出等の増収活動の継続に加え、事 業者と沿線自治体が連携した住民ニーズの把握やバス利用を 促す周知等に取り組む必要がある。
西鉄バス佐賀㈱ 綾部線	鳥栖駅～綾部・国立東佐賀病院前 ～西鉄久留米系統の運行。	2019年5月鳥栖市立旭小学校にて小学校3年生約120名を 対象にバス乗り方教室および周遊体験を実施。またバス 車内にて、沿線のイベント情報の掲載を継続実施、久留米 市内でバス利用を呼び掛けるポスティングの実施、久留米 でのバス・鉄道フェスタでの利用促進の呼び掛け、定期的 に停留所への吊り下げ時刻表の掲出等を行い、利用者増 へ向けた取組を行った。	A 計画通り事業は適切に実施 された	C 【収支率】 目標:48.4% 実績:42.0% (30年実績:45.1%) 【輸送人員】 30年実績:87,239人 実績:88,380人	輸送人員が増加している路線。バス教室の実施、沿線のイベ ント情報のバス車内への掲載、西鉄グループで毎月実施してい る天神・博多・久留米地区でのチラシ配布への継続参加、久留 米でのバス・鉄道フェスタでの利用促進の呼び掛け、停留所へ の吊り下げ時刻表の掲出等の増収活動の継続に加え、事業者 と沿線自治体が連携した住民ニーズの把握やバス利用を促す 周知等に取り組む必要がある。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※ A:達成、B一部未達成、C未達成	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西鉄バス佐賀(株) 江見線	佐賀第二合同庁舎～江見～西鉄久留米系統の運行。	バス車内にて、沿線のイベント情報の掲載を継続実施、久留米市内でバス利用を呼び掛けるポスティングの実施、久留米でのバス・鉄道フェスタでの利用促進の呼び掛け、定期的に停留所への吊り下げ時刻表の掲出等を行い、利用者増へ向けた取組を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された	C 【収支率】 目標: 77.2% 実績: 71.1% (30年実績: 76.4%) 【輸送人員】 30年: 128,532人 実績: 124,579人	輸送人員が減少している路線。バス教室の実施、沿線のイベント情報のバス車内への掲載、西鉄グループで毎月実施している天神・博多・久留米地区でのチラシ配布への継続参加、久留米でのバス・鉄道フェスタでの利用促進の呼び掛け、停留所への吊り下げ時刻表の掲出等の増収活動の継続に加え、事業者と沿線自治体が連携した住民ニーズの把握やバス利用を促す周知等に取り組む必要がある。
西鉄バス佐賀(株) 江見線	佐賀第二合同庁舎～江見～信愛学院系統の運行。	バス車内にて、沿線のイベント情報の掲載を継続実施、久留米市内でバス利用を呼び掛けるポスティングの実施、久留米でのバス・鉄道フェスタでの利用促進の呼び掛け、定期的に停留所への吊り下げ時刻表の掲出等を行い、利用者増へ向けた取組を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された	C 【収支率】 目標: 92.4% 実績: 77.3% (30年実績: 80.3%) 【輸送人員】 30年実績: 73,478人 実績: 76,356人	輸送人員が増加している路線。バス教室の実施、沿線のイベント情報のバス車内への掲載、西鉄グループで毎月実施している天神・博多・久留米地区でのチラシ配布への継続参加、久留米でのバス・鉄道フェスタでの利用促進の呼び掛け、停留所への吊り下げ時刻表の掲出等の増収活動の継続に加え、事業者と沿線自治体が連携した住民ニーズの把握やバス利用を促す周知等に取り組む必要がある。
西鉄バス佐賀(株) 鳥栖～神埼線	鳥栖駅～目達原～神埼駅通り系統の運行。	吉野ヶ里歴史公園の情報誌「ひみか通信」にバスを利用したアクセス情報を掲載したものを西鉄久留米にて配布したほか、2019年5月鳥栖市立旭小学校にて小学校3年生約120名を対象にバス乗り方教室および周遊体験を実施。またバス車内にて、沿線のイベント情報の掲載を継続実施定期的に停留所への吊り下げ時刻表の掲出等を行い、利用者増へ向けた取組を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された	C 【収支率】 目標: 51.2% 実績: 40.1% (30年実績: 45.2%) 【輸送人員】 30年実績: 37,437人 実績: 37,500人	輸送人員が横ばいの路線。バス教室の実施、沿線のイベント情報のバス車内への掲載、西鉄グループで毎月実施している天神・博多・久留米地区での「ひみか通信」の配布の継続、久留米でのバス・鉄道フェスタでの利用促進の呼び掛け、停留所への吊り下げ時刻表の掲出等の増収活動の継続に加え、事業者と沿線自治体が連携した住民ニーズの把握やバス利用を促す周知等に取り組む必要がある。
西肥自動車(株) 福島支所前～伊万里駅前線	福島支所前～伊万里駅前系統の運行。	当該路線に特化した時刻表・沿線マップの作成および全戸配布を行い、利用者増を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された	C 【経常収益】 目標: 16,662,000円 実績: 14,593,661円 (30年実績: 14,926,176円) 【輸送人員】 目標: 38,525人 実績: 35,402人 (30年実績: 35,164人)	輸送人員が減少し続けている路線。当該路線に特化した時刻表・沿線マップの作成および全戸配布の継続実施、交通系ICカード導入や高齢者の新規利用取込等により利用増を図る。
西肥自動車(株) 佐世保～伊万里線	佐世保～伊万里系統の運行。	運行時刻の見直しや有田町コミュニティバスとの接続等を行い、利用者増を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された	C 【経常収益】 目標: 35,192,000円 実績: 22,076,654円 (30年実績: 34,394,975円) 【輸送人員】 目標: 173,710人 実績: 104,997人 (30年実績: 170,471人)	輸送人員が減少し続けている路線。当該路線に特化した時刻表・沿線マップの作成および全戸配布の継続実施、交通系ICカード導入や高齢者の新規利用取込等により利用増を図る。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況 ※ A:達成、B一部未達成、C未達成	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西肥自動車(株) 佐世保～嬉野線	佐世保～嬉野系統の運行。	運行時刻の見直しや、当該路線に特化した時刻表・沿線マップの作成および全戸配布を行い、利用者増を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された	C 【経常収益】 目標: 86,814,000円 実績: 41,021,996円 (30年実績: 83,614,562円) 【輸送人員】 目標: 380,144人 実績: 148,298人 (30年実績: 369,823人)	輸送人員が減少し続けている路線。当該路線に特化した時刻表・沿線マップの作成および全戸配布の継続実施、交通系ICカード導入や高齢者の新規利用取込等により利用増を図る。
JR九州バス株式会社	嬉野温泉～武雄温泉駅南口～新武雄病院の運行 H26 車両購入1台/年 (嬉野～新武雄病院、彼杵～たけお競輪場に導入)	運行便の乗車状況データを参考に、車両運用の効率化も踏まえたダイヤを検討し、たけお競輪場まで延伸を行ったほか、インバウンド客への対応のために多言語翻訳機を乗務員に持たせて利便性の向上を図った。また、高齢者用の定期券の周知を行い、利用者増を図った。また、ホームページをスマホ対応に改修し、沿線の観光地やお得な情報についてコンテンツに盛り込んだ内容にリニューアルし、既存客の利便性向上と新規利用の取込みを図った。	A 計画通り事業は適切に実施された	B 【経常収益】 目標: 42,842,207円 実績: 43,418,428円 (30年実績: 44,528,576円) 【輸送人員】 目標: 110,205人 実績: 106,669人 (30年実績: 110,023人) ※輸送人員は減少したが、1人あたりの経常収益は増加した。	輸送人員が減少している路線。利用促進の広報活動を継続していく。また、将来の新幹線開通を考えた輸送体系と観光等の交通網として事業者と沿線自治体が一体となって検討していく。
JR九州バス株式会社	彼杵駅～嬉野温泉・嬉野医療センター・武雄温泉南口・ゆめタウン～たけお競輪場の運行 H26 車両購入1台/年 (嬉野～新武雄病院、彼杵～たけお競輪場に導入)	運行便の乗車状況データを参考に、車両運用の効率化も踏まえ、嬉野医療センター移転に伴う路線の再編及びたけお競輪場までの延伸を行ったほか、インバウンド客への対応のために多言語翻訳機を乗務員に持たせて利便性の向上を図った。また、高齢者用の定期券の周知を行い、利用者増を図った。また、ホームページをスマホ対応に改修し、沿線の観光地やお得な情報についてコンテンツに盛り込んだ内容にリニューアルし、既存客の利便性向上と新規利用の取込みを図った。	A 計画通り事業は適切に実施された	C 【経常収益】 目標: 27,038,104円 実績: 23,457,265円 (30年実績: 26,015,581円) 【輸送人員】 目標: 68,754人 実績: 63,646人 (30年実績: 71,913人) ※輸送人員及び1人あたりの経常収益は減少した。インバウンドの減少及び彼杵方面の利用者の減少に歯止めがかからない状況である。	輸送人員が減少している路線。利用促進の広報活動を継続していく。また、将来の新幹線開通を考えた輸送体系と観光等の交通網としても事業者と沿線自治体が一体となって検討していく。



地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表  
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年3月30日

九州運輸局

評価対象事業名：地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今 後の改善点	評価結果	
長崎県バス 対策協議会	長崎県交通局 西肥自動車(株) 島原鉄道(株) さいかい交通(株) 五島自動車(株) 壱岐交通(株) 対馬交通(株) JR九州バス(株)	36系統  ※詳細は別添 一次評価のと おり	別添一次評価の とおり	A評価:36系統 B評価:0系統 C評価:0系統	A評価:10系統 B評価:25系統 C評価:1系統  【参考:前年度】 A評価:15系統 B評価:21系統 C評価:2系統	別添一次評価 の とおり	<p>・高齢者免許返納パスや高齢者フリーパス等の企画乗車券の販売促進、新入生を対象とした学校への定期券購入案内、時刻表やおでかけMAPを活用した路線情報の発信やチラシ配布、バスの乗り方教室等利用促進に取り組まれていることを評価します。</p> <p>・生産性向上に関するWG等を地域毎に開催して、検討や意見交換を行い、関係市町村及び事業者が目標の達成に向け取り組みを行っていくことの共通認識が図られたことを評価します。引き続き、地域間幹線系統における生産性向上の取り組みの着実な実施を期待します。</p> <p>・生活路線と観光利用は必ずしも一致しないこともありますので、利用者の実態把握、利用者増減の要因分析を行い、地域特性を踏まえた対応策を考えていくことが重要です。また、乗り方教室等のイベントは「知ってもらう」「乗ってみる」の先の「乗り続ける」という視野まで広げていただき、乗り続けたいと思う仕組みを進めていくことが重要です。今後も県と市町村が連携を図り、事業者や住民と共に持続可能な効率的で利便性の高いネットワークが維持改善されることを期待します。</p>	評価指標 【輸送人員】 【運送収入】

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月15日

協議会名:長崎県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長崎県交通局 長崎～雲仙	1. 長崎～雲仙	観光需要の取込に向けてインバウンド対策の多言語表記の路線案内や時刻表の作成、営業活動を行った。 また、『各種フリーパスの実施』及び『おでかけMAPの配布』によるバス利用促進のための取組を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ・目標平均乗車密度6.3人(H29年度実績値)に対し、H31年度は6.3人となり、目標を達成できた。 ・しかし利用人数及び運送収入は、平成29年度実績に対し87人の利用減(99.7%)、66,944円の減収(99.8%)となり目標を達成できなかった。 集計は年1回実施する収入実態調査に基づくものであるが、路線としての利用状況に大きな変動は確認されておらず、調査時点の利用者数が若干少なかった可能性もあると判断している。 今後の取り組みを継続することで達成可能であると認識している。	引き続き営業活動を強化し、インバウンドの取り込みを行う。 また、高齢化社会を見据えて、利用しやすいフリー定期券の販売拡大を図る。
長崎県交通局 江の浦～長崎	2. 江の浦～長崎(矢上団地、大波止経由) 【車両補助対象】 ・H28.03 購入4台	利用状況に合わせて、運行ダイヤの一部見直しを行った。 また、『各種フリーパスの実施』及び『おでかけMAPの配布』によるバス利用促進のための取組を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標平均乗車密度6.3人(H29年度実績値)に対し6.6人となり、目標を達成できた。 また利用人数及び運送収入は、平成29年度実績に対し15,101人の利用増(105.3%)、3,948,553円の増収(108.3%)となり目標を達成できた。	おでかけMAPを活用し、路線情報の発信を継続する。また、高齢化社会を見据えて、利用しやすいフリー定期券の販売拡大を図り、通学需要も多い路線であるため、キッズバス等を通じて、若年層への利用促進も展開する。
長崎県交通局 江の浦～長崎	3. 江の浦～長崎(飯盛団地、矢上団地、大波止経由)	路線特性に留意しながら適正な運行に努め、『各種フリーパスの実施』及び『おでかけMAPの配布』によるバス利用促進のための取組を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標平均乗車密度6.7人(H29年度実績値)に対し6.6人となり、目標を達成できなかった。 また利用人数及び運送収入は、平成29年度実績に対し616人の利用減(99.4%)となったものの197,113円の増収(101.1%)となり、一部目標を達成できた。 集計は年1回実施する収入実態調査に基づくものであるが、路線としての利用状況に大きな変動は確認されておらず、調査時点の利用者数が若干少なかった可能性もあると判断している。 今後の取り組みを継続することで達成可能であると認識している。	おでかけMAPを活用し、路線情報の発信を継続する。また、高齢化社会を見据えて、利用しやすいフリー定期券の販売拡大を図り、通学需要も多い路線であるため、キッズバス等を通じて、若年層への利用促進も展開する。
長崎県交通局 諫早～県界	4. 諫早～県界 【車両補助対象】 ・H26.03 購入1台	利用状況に合わせて、運行ダイヤの一部見直しを行った。 また、『各種フリーパスの実施』及び『おでかけMAPの配布』によるバス利用促進のための取組を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標平均乗車密度3.9人(H29年度実績値)に対し3.7人となり、目標を達成できなかった。 また利用人数及び運送収入は、平成29年度実績に対し4,929人の利用減(97.0%)、1,265,806円の減収(96.0%)となり目標を達成できなかった。 集計は年1回実施する収入実態調査に基づくものであるが、収入調査実施日の利用者数が若干少ない傾向であった可能性もあるものの、利用者数は減少傾向と認識している。	おでかけMAPを活用し、路線情報の発信を継続する。路線内にはフルーツの形の上屋があるので、これを利用してバス利用を試みる方法を検討する。 また、高齢化社会を見据えて、利用しやすいフリー定期券の販売拡大を図る。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月15日

協議会名:長崎県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長崎県交通局 諫早～みさかえの園	5. 諫早～みさかえの園 【車両補助対象】 ・H26.03 購入2台	路線特性に留意しながら適正な運行に努め、『各種フリーパスの実施』及び『おでかけMAPの配布』によるバス利用促進のための取組を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標平均乗車密度3.8人(H29年度実績値)に対し3.9人となり、目標を達成できた。 また利用人数及び運送収入は平成29年度実績に対し1,906人の利用増(102.9%)、133,015円の増収(100.9%)となり目標を達成できた。	おでかけMAPを活用し、路線情報の発信を継続する。路線内にはフルーツの形の上屋があるので、これを利用してバス利用を試みる方法を検討する。 また、高齢化社会を見据えて、利用しやすいフリー定期券の販売拡大を図る。 なお、今後は沿線の学校・施設等の人員及び人の流れを鑑みながら適正運行に努めたい。
長崎県交通局 東厚生町～飯盛団地	6. 東厚生町～飯盛団地 【車両補助対象】 ・H30.03 購入3台	利用状況に合わせて、運行ダイヤの一部見直しを行った。 また、『各種フリーパスの実施』及び『おでかけMAPの配布』によるバス利用促進のための取組を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標平均乗車密度3.8人(H29年度実績値)に対し4.2人となり、目標を達成できた。 また利用人数及び運送収入は、平成29年度実績に対し10,977人の利用増(105.9%)、2,698,843円の増収(108.8%)となり目標を達成できた。	おでかけMAPを活用し、路線情報の発信を継続する。また、高齢化社会を見据えて、利用しやすいフリー定期券の販売拡大を図り、通学需要も多い路線であるため、キッズバス等を通じて、若年層への利用促進も展開する。
長崎県交通局 今村～早見	7. 今村～早見 【車両補助対象】 ・H26.03 購入1台	路線特性に留意しながら適正な運行に努め、『各種フリーパスの実施』及び『おでかけMAPの配布』によるバス利用促進のための取組を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標平均乗車密度4.0人(H29年度実績値)に対し4.2人となり、目標を達成できた。 また利用人数及び運送収入は、平成29年度実績に対し2,606人の利用増(101.9%)、1,154,772円の増収(104.2%)となり目標を達成できた。	おでかけMAPを活用し、路線情報の発信を継続する。また、高齢化社会を見据えて、利用しやすいフリー定期券の販売拡大を図り、通学需要も多い路線であるため、キッズバス等を通じて、若年層への利用促進も展開する。
長崎県交通局 東厚生町～西川内	8. 東厚生町～西川内	路線特性に留意しながら適正な運行に努め、『各種フリーパスの実施』及び『おでかけMAPの配布』によるバス利用促進のための取組を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標平均乗車密度4.3人(H29年度実績値)に対し3.8人となり、目標を達成できなかった。 また利用人数及び運送収入は、平成29年度実績に対し4,177人の利用減(89.9%)、994,457円の減収(88.2%)となり目標を達成できなかった。 集計は年1回実施する収入実態調査に基づくものであるが、収入調査実施日の利用者数が若干少ない傾向であった可能性もあるものの、利用者数は減少傾向と認識している。	おでかけMAPを活用し、路線情報の発信を継続する。また、高齢化社会を見据えて、利用しやすいフリー定期券の販売拡大を図る。
長崎県交通局 諫早～長崎空港	9. 諫早～長崎空港 (消防学校前、サンスパ おおむら経由)	路線特性に留意しながら適正な運行に努め、『各種フリーパスの実施』及び『おでかけMAPの配布』によるバス利用促進のための取組を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標平均乗車密度5.2人(H29年度実績値)に対し5.4人となり、目標を達成できた。 また利用人数及び運送収入は、平成29年度実績に対し2,350人の利用増(102.5%)、1,022,460円の増収(104.4%)となり目標を達成できた。	おでかけMAPを活用し、路線情報の発信を継続する。また、高齢化社会を見据えて、利用しやすいフリー定期券の販売拡大を図る。 大村市内でのフィーダー系統等との乗継ダイヤに注意してエリアでの路線展開を実施する。
長崎県交通局 諫早～長崎空港	10. 諫早～長崎空港 (長崎医療センター、サン スパおおむら経由) 【車両補助対象】 ・H31.3 購入3台	路線特性に留意しながら適正な運行に努め、『各種フリーパスの実施』及び『おでかけMAPの配布』によるバス利用促進のための取組を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標平均乗車密度4.8人(H29年度実績値)に対し5.2人となり、目標を達成できた。 また利用人数及び運送収入は、平成29年度実績に対し8,253人の利用増(105.4%)、2,355,131円の増収(107.4%)となり目標を達成できた。	おでかけMAPを活用し、路線情報の発信を継続する。また、高齢化社会を見据えて、利用しやすいフリー定期券の販売拡大を図る。 大村市内でのフィーダー系統等との乗継ダイヤに注意してエリアでの路線展開を実施する。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月15日

協議会名:長崎県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西肥自動車(株) 佐世保駅前～吉井	1. 佐世保駅前～吉井線の運行。	地区別時刻表作成・配布やリフレッシュバス65の割引制度PRを実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 適切に実施された。	A 【輸送人員】 目標:65,381人 H31実績:73,895人 (H29年実績:64,781人) 【運送収入】 目標:11,620,594円 H31実績:13,192,400円 (H29年実績:11,505,539円) 目標に対し、輸送人員は113%、運送収入は114%となった。	地区別時刻表作成・配布やリフレッシュバス65の割引制度PRを実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を目指す。
西肥自動車(株) 松浦駅前～平戸桟橋	2. 松浦駅前～平戸桟橋線の運行。	地区別時刻表作成・配布、リフレッシュバス65の割引制度PRを実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 適切に実施された。	B 【輸送人員】 目標:55,436人 H31実績:47,279人 (H29年実績:54,936人) 【運送収入】 目標:15,896,404円 H31実績:14,144,092円 (H29年実績:15,739,014円) 目標に対し、輸送人員は85%、運送収入は89%となった。	地区別時刻表作成・配布、市報への公共交通PR記事掲載、リフレッシュバス65の割引制度PRを実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を目指す。
西肥自動車(株) 福島支所前～伊万里駅前	3. 福島支所前～伊万里駅前線の運行。	地区別時刻表作成・配布、運行時刻の見直しを行い、利用者増を図った。	A 適切に実施された。	B 【輸送人員】 目標:38,531人 H31実績:35,402人 (H29年実績:38,131人) 【運送収入】 目標:16,162,419円 H31実績:14,187,325円 (H29年実績:16,002,395円) 目標に対し、輸送人員は92%、運送収入は88%となった。	地区別時刻表作成・配布、町報への公共交通PR記事掲載、リフレッシュバス65の割引制度PR、バスの乗り方教室、高校入学前の時期に中学校への定期券PRチラシ配布を実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を目指す。
西肥自動車(株) 川棚バスセンター～内海	4. 川棚バスセンター～内海線の運行。	地区別時刻表の作成・配布、町報への公共交通PR記事掲載、リフレッシュバス65の割引制度PR、高校入学前の時期に中学校への定期券PRチラシ配布を実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 適切に実施された。	B 【輸送人員】 目標:77,532人 H31実績:71,405人 (H29年実績:76,832人) 【運送収入】 目標:17,912,468円 H31実績:16,971,779円 (H29年実績:17,735,117円) 目標に対し、輸送人員は92%、運送収入は95%となった。	地区別時刻表の作成・配布、町報への公共交通PR記事掲載、リフレッシュバス65の割引制度PR、高校入学前の時期に中学校への定期券PRチラシ配布を実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を目指す。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月15日

協議会名:長崎県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西肥自動車(株) 佐世保～伊万里	5. 佐世保～伊万里線の運行。	地区別時刻表の作成・配布、運行時刻の見直しや有田町コミュニティバスとの接続等を行い、利用者増を図った。	A 適切に実施された。	【輸送人員】<共通系統のみによる比較> 目標:173,459人<50,707人> H31実績:104,997人<81,615人> (H29年実績:171,959人<50,207人>) 【運送収入】 目標:34,506,941円<10,370,487円> H31実績:21,725,729円<17,057,550円> (H29年実績:34,165,288円<10,267,809円>) 目標に対し、輸送人員は61%<163%>、運送収入は63%<164%>となった。 ※H29年度と比較すると補助系統数が6系統から5系統(3減2増)になったこと、平成31年3月の運行体制一体化によるダイヤ改正に伴う主系統の変更等(主系統が柚木から総合医療センターとなり走行キロ減少)により、大幅な減少となった。<但し、H29年度から引き続き補助系統として残る系統(共通系統)のみで比較した場合、輸送人員及び運送収入ともに増加となった。>	地区別時刻表の作成・配布、市報への公共交通PR記事掲載、リフレッシュバス65の割引制度PR、バスの乗り方教室を実施することにより輸送人員及び経常収益の増加を目指す。
西肥自動車(株) 有川～青方	6. 有川～青方線の運行。	地区別時刻表の作成・配布、リフレッシュバス65の割引制度PR、高校入学前の時期に中学校への定期券PRチラシ配布、転入者へのバス利用案内配布、を実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を図った	A 適切に実施された。	【輸送人員】 目標:33,684人 H31実績:38,050人 (H29年実績:33,384人) 【運送収入】 目標:8,039,929円 H31実績:8,680,084円 (H29年実績:7,960,326円) 目標に対し、輸送人員は113%、運送収入は108%となった。	地区別時刻表の作成・配布、町報への公共交通PR記事掲載、リフレッシュバス65の割引制度PR、高校入学前の時期に中学校への定期券PRチラシ配布、転入者へのバス利用案内配布、を実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を目指す。
西肥自動車(株) 有川～奈良尾	7. 有川～奈良尾線の運行。	リフレッシュバス65の割引制度PR、高校入学前の時期に中学校への定期券PRチラシ配布、転入者へのバス利用案内配布を実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 適切に実施された。	【輸送人員】 目標:73,163人 H31実績:61,238人 (H29年実績:72,463人) 【運送収入】 目標:22,835,666円 H31実績:19,280,347円 (H29年実績:22,609,570円) 目標に対し、輸送人員は84%、運送収入は84%となった。	町報への公共交通PR記事掲載、リフレッシュバス65の割引制度PR、高校入学前の時期に中学校への定期券PRチラシ配布、転入者へのバス利用案内配布を実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を目指す。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月15日

協議会名:長崎県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西肥自動車(株) 青方循環	8. 青方循環線の運行。	地区別時刻表の作成・配布、リフレッシュバス65割引制度PR、高校入学前の時期に中学校への定期券PRチラシ配布転入者へのバス利用案内配布を実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 適切に実施された。	【輸送人員】 目標:38,077人 H31実績:31,463人 (H29年実績:37,777人) 【運送収入】 目標:7,379,449円 H31実績:6,098,668円 (H29年実績:7,306,385円) 目標に対し、輸送人員は83%、運送収入は83%となった。	地区別時刻表の作成・配布、町報への公共交通PR記事掲載、リフレッシュバス65割引制度PR、高校入学前の時期に中学校への定期券PRチラシ配布転入者へのバス利用案内配布を実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を目指す。
西肥自動車(株) 楠泊	9. 佐々バスセンター～江迎線の運行。	地区別時刻表の作成・配布、リフレッシュバス65の割引制度PR、高校入学前の時期に中学校への定期券PRチラシ配布を実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を図った。	A 適切に実施された。	【輸送人員】 目標:148,980人 H31実績:139,538人 (H29年実績:147,580人) 【運送収入】 目標:29,973,516円 H31実績:30,615,833円 (H29年実績:29,676,749円) 目標に対し、輸送人員は94%、運送収入は102%となった。	地区別時刻表の作成・配布、リフレッシュバス65の割引制度PR、高校入学前の時期に中学校への定期券PRチラシ配布を実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を目指す。
西肥自動車(株) 佐世保～嬉野	10. 佐世保～嬉野線の運行。	地区別時刻表の作成・配布、運行時刻の見直しや、当該路線に特化した時刻表・沿線マップの作成および全戸配布を行い、利用者増を図った。	A 適切に実施された。	【輸送人員】<共通系統のみによる比較> 目標:379,824人<114,497人> H31実績:148,298人<128,640人> (H29年実績:376,324人<113,397人>) 【運送収入】 目標:85,558,286円<28,263,404円> H31実績:40,578,720円<35,206,248円> (H29年実績:84,711,174円<27,983,568円>) 目標に対し、輸送人員は39%<112%>、運送収入は47%<125%>となった。 ※H29年度と比較すると、平成31年3月の運行体制一体化によるダイヤ改正に伴う主系統の変更等(主系統が柚木から総合医療センターとなり走行キロ減少)により、大幅な減少となった。<但し、H29年度から引き続き補助系統として残る系統(共通系統)のみで比較した場合、輸送人員及び運送収入ともに増加となった。>	地区別時刻表の作成・配布、町報への公共交通PR記事掲載、リフレッシュバス65の割引制度PR、高校入学前の時期に中学校への定期券PRチラシ配布、ノーマイカーデーを実施することにより、輸送人員及び経常収益の増加を目指す。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月15日

協議会名:長崎県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
島原鉄道(株) 島原空港	1. 島原港～長崎空港の運行	前回と同様に、沿線人口の増減率に輸送人員数を乗じた値を目標として取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 【輸送人員】 ・目標である28,887名(H29年度の実績値(28,974名)に沿線人口の直近3ヶ年の平均増減率を乗じた値)に対し、H31年度は20,932名(72.5%)となり目標未達となった。 【運送収入】 ・H29年度の実績値22,424,036円に対し、H31年度は13,405,342円(59.8%)となり目標未達となった。	令和元年10月のダイヤ改正において、当社鉄道との併走課題を解消するため、本諫早駅を乗継点とし、島原～本諫早を鉄道、本諫早～空港をバスで乗り継ぐダイヤに変更した。その結果、令和2年度から当事業の対象ではなくなるが、今後も地域公共交通手段の確保に向けて、地元自治体との協議に努める。
島原鉄道(株) 諫早島原	2. 諫早駅～島原港の運行	前回と同様に、沿線人口の増減率に輸送人員数を乗じた値を目標として取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 【輸送人員】 ・目標である154,530名(H29年度の実績値(155,698名)に沿線人口の直近3ヶ年の平均増減率を乗じた値)に対し、H31年度は126,634名(81.9%)となり目標未達となった。 【運送収入】 ・H29年度の実績値29,008,020円に対し、H31年度は24,160,366円(83.3%)となり目標未達となった。	令和元年10月のダイヤ改正において、当社鉄道との併走課題の解決策として、鉄道を主とした利用を促すため、当系統の運行回数の減便を行った。その結果、令和2年度から当事業の対象とはなくなるが、今後も地域公共交通手段の確保に向けて、地元自治体との協議に努める。
島原鉄道(株) 島原加津佐	3. 島原駅～加津佐の運行	前回と同様に、沿線人口の増減率に輸送人員数を乗じた値を目標として取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 【輸送人員】 ・目標である88,954名(H29年度の実績値(90,354名)に沿線人口の直近3ヶ年の平均増減率を乗じた値)に対し、H31年度は74,122名(83.3%)となり目標未達となった。 【運送収入】 ・H29年度の実績値19,705,868円に対し、H31年度は18,983,653円(96.3%)となり目標未達となった。	従来の企画乗車券(島原半島周遊パス、しまてつスキっぷ、シルバー割引定期券など)の拡販に努める他、九州産交との連携商品「雲仙・天草世界遺産周遊パス」のように他の施設と連携した企画商品の発売に取組む。
島原鉄道(株) 諫早市役所雲仙	4. 諫早駅～雲仙の運行	前回と同様に、沿線人口の増減率に輸送人員数を乗じた値を目標として取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 【輸送人員】 ・目標である90,370名(H29年度の実績値(91,007名)に沿線人口の直近3ヶ年の平均増減率を乗じた値)に対し、H31年度は89,356名(98.9%)となり目標未達となった。 【運送収入】 ・H29年度の実績値26,516,305円に対し、H31年度は25,259,001円(95.3%)となり目標未達となった。	従来の企画乗車券(島原半島周遊パス、しまてつスキっぷ、シルバー割引定期券など)の拡販に努める他、九州産交との連携商品「雲仙・天草世界遺産周遊パス」のように他の施設と連携した企画商品の発売に取組む。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月15日

協議会名:長崎県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
島原鉄道(株) 諫早市役所島原	5. 諫早駅～雲仙～島原駅の運行	前回と同様に、沿線人口の増減率に輸送人員数を乗じた値を目標として取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	【輸送人員】 ・目標である124,738名(H29年度の輸送人員の実績値(125,998名)に沿線人口の直近3ヶ年の平均増減率を乗じた値)に対し、H31年度は108,110名(86.7%)となり目標未達となった。 【運送収入】 ・H29年度の実績値40,121,523円に対し、H31年度は31,137,379円(77.6%)となり目標未達となった。	従来の企画乗車券(島原半島周遊パス、しまてつスキっぷ、シルバー割引定期券など)の拡販に努める他、九州産交との連携商品「雲仙・天草世界遺産周遊パス」のように他の施設と連携した企画商品の発売に取組む。
島原鉄道(株) 島原雲仙	6. 青雲荘～島原駅の運行	前回と同様に、沿線人口の増減率に輸送人員数を乗じた値を目標として取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	【輸送人員】 ・目標である61,429名(H29年度の輸送人員の実績値(62,301名)に沿線人口の直近3ヶ年の平均増減率を乗じた値)に対し、H31年度は58,167名(94.7%)となり目標未達となった。 【運送収入】 ・H29年度の実績値14,373,174円に対し、H31年度は12,843,571円(89.4%)となり目標未達となった。	従来の企画乗車券(島原半島周遊パス、しまてつスキっぷ、シルバー割引定期券など)の拡販に努める他、九州産交との連携商品「雲仙・天草世界遺産周遊パス」のように他の施設と連携した企画商品の発売に取組む。
島原鉄道(株) 諫早口之津	7. 諫早駅～口之津の運行	前回と同様に、沿線人口の増減率に輸送人員数を乗じた値を目標として取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	【輸送人員】 ・目標である178,694名(H29年度の輸送人員の実績値(180,408名)に沿線人口の直近3ヶ年の平均増減率を乗じた値)に対し、H31年度は196,896名(110.2%)となり目標を達成した。 【運送収入】 ・H29年度の実績値46,472,533円に対し、H31年度は48,485,989円(104.3%)となり目標を達成した。	従来の企画乗車券(島原半島周遊パス、しまてつスキっぷ、シルバー割引定期券など)の拡販に努める他、九州産交との連携商品「雲仙・天草世界遺産周遊パス」のように他の施設と連携した企画商品の発売に取組む。
島原鉄道(株) 諫早大屋	8. 諫早駅～大屋の運行	前回と同様に、沿線人口の増減率に輸送人員数を乗じた値を目標として取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	【輸送人員】 ・目標である158,062名(H29年度の輸送人員の実績値(159,578名)に沿線人口の直近3ヶ年の平均増減率を乗じた値)に対し、H31年度は180,859名(114.4%)となり目標を達成した。 【運送収入】 ・H29年度の実績値43,940,452円に対し、H31年度は49,445,652円(112.5%)となり目標を達成した。	従来の企画乗車券(島原半島周遊パス、しまてつスキっぷ、シルバー割引定期券など)の拡販に努める他、九州産交との連携商品「雲仙・天草世界遺産周遊パス」のように他の施設と連携した企画商品の発売に取組む。



## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月15日

協議会名:長崎県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
さいかい交通(株) 瀬戸・桜の里線	板の浦～神の浦～桜の里ターミナルの運行	世界遺産である「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産「外海の出津集落」「外海の大野集落」へのアクセスを紹介したパンフレットを継続して配布するとともに、路線バスでの移動、食事、施設入場券等がセットになった旅行商品「路線バスの旅(キリシタンの里(出津教会)・遠藤周作文学館とランチバイキング)」の販売促進を図り、観光需要の取込を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ・目標としていた平均乗車密度4.3(H29年度実績)以上に対して、H31年度は4.1であり、計画に位置づけられた目標を達成できなかった。 ・輸送人員は、H29年度実績の106,578人に対して、H31年度実績値は102,583人と目標を達成しなかった。 ・運送収入は、平成29年度実績の26,080,780円に対して、平成30年12月1日に運賃改定を実施したこともあり、H31年度実績値は27,265,465円となり、目標を達成した。	沿線の世界遺産を訪れる観光客の一層の利便向上を図るべく、世界遺産の駐車場までの路線延長などを関係機関と連携して検討する。 また、アクセスを紹介したパンフレット配布や旅行商品「路線バスの旅(キリシタンの里(出津教会)・遠藤周作文学館とランチバイキング)」の販売促進を継続して実施する。 さらに、引き続き、地元利用者のニーズや利用実態変化の把握に努め、地域住民と観光利用のバランスのとれたダイヤ編成に努める。
五島自動車(株) 三井楽	1. 福江～水之浦～三井楽の運行。 本年車両1台を購入。	フリー乗車券の広報・PR活動の取り組みに加え、企画乗車券の販売、高齢者フリーパスの販売により、輸送人員の確保に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ・平均乗車密度の目標3.2人(H29年度実績)以上に対し、R1年度は2.9人となり、前年値・目標値を達成するに至らなかった。 ・収益改善の目標2%増についても、R1年度は11.7%の減収となり、目標達成に至らなかった。 【運送収入】 ・平成29年度:24,889,918円 ・令和1年度:21,980,368円 ・差額:▲2,909,550円(▲11.7%) 【輸送人員】 ・平成29年度:122,540人 ・令和1年度:123,728人 ・人員差: +1,188人(+1.0%)	企画乗車券の広報・PR活動の取り組みに加え、高齢者フリー乗車券の販売強化により、輸送人員の拡大を図る。 また、更に効率的なダイヤ編成を構築することにより経費の圧縮を図り、収支率の改善を目指す。
五島自動車(株) 富江	2. 福江～大浜～富江の運行。 本年車両1台を購入。	フリー乗車券の広報・PR活動の取り組みに加え、企画乗車券の販売、高齢者フリーパスの販売により、輸送人員の確保に取り組んだ。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B ・平均乗車密度の目標2.8人(H29年度実績)以上に対し、期間中2.4人となり、前年値・目標値を達成するに至らなかった。 ・収益改善の目標2%増についても、R1年度は10.1%の減収となり、目標達成に至らなかった。 【運送収入】 ・平成29年度:17,156,248円 ・令和1年度:15,422,520円 ・差額:▲1,733,728円(▲10.1%) 【輸送人員】 ・平成29年度:43,797人 ・令和1年度:50,618人 ・人員差: +6,821人(+15.6%)	企画乗車券の広報・PR活動の取り組みに加え、高齢者フリー乗車券の販売強化により、輸送人員の拡大を図る。 また、更に効率的なダイヤ編成を構築することにより経費の圧縮を図り、収支率の改善を目指す。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月15日

協議会名:長崎県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
吉岐交通株式会社 国分経由一周芦辺線	1. 郷ノ浦～勝本・芦辺～郷ノ浦の運行	・3月に各高校へ向向き、新入生や父兄へ定期券についての説明や時刻表等のチラシを配布した。 ・1日フリー乗車券の販売増のため、HPへの掲載や各車両へのチラシの貼付などを行った。	A 計画どおりに事業は実施された	B ・目標輸送人員70,550人(H29年度実績69,851人の1%増)以上に対し、高校生の減少が影響したため、H31年度は64,391人(▲9.6%)となり、目標を達成出来なかった。 ・運送収入はフリー乗車券の販売が伸びたが、H29年度の実績2,073万円に対し、H31年度は2,069万円となり、4万円の減収となった。	1日フリー乗車券については、広告強化により販売増に繋がったが、定期券については、生徒数の減少により、目標は達成出来ず厳しい結果となった。 来期は今期の数値を維持あるいは上回るよう吉岐市と連携して各高校への広告強化を図る。
吉岐交通株式会社 湯ノ本経由勝本線	2. 郷ノ浦～湯本～勝本・天ヶ原の運行	・3月に各高校へ向向き、新入生や父兄へ定期券についての説明や時刻表等のチラシを配布した。 ・1日フリー乗車券の販売増のため、HPへの掲載や各車両へのチラシの貼付などを行った。	A 計画どおりに事業は実施された	B ・目標輸送人員46,140人(H29年度実績45,685人の1%増)以上に対し、高校生の減少が影響したため、H31年度は45,315人(▲1.8%)となり、目標を達成出来なかった。 ・運送収入もH29年度の実績1,550万円に対し、H31年度は1,509万円となり、41万円の減収となった。	1日フリー乗車券については、広告強化により販売増に繋がったが、定期券については、生徒数の減少により、目標は達成出来ず厳しい結果となった。 来期は今期の数値を維持あるいは上回るよう吉岐市と連携して各高校への広告強化を図る。
対馬交通株式会社 対馬病院線	1. 対馬病院線(厳原～鷓知～対馬病院)	便毎の利用客の状況(利用時間、目的地)を分析し、時刻の見直しを行った。 また、自治体と連携し、免許返納者への1ヶ月定額フリーパスポート割引販売等により利用促進を図った。	A 事業は適切に実施された	B 【輸送人員】 ・H29年度実績:92,577人 ・目標値(102.47%):94,864人 ・H31年度実績:79,473人 ・達成率:83.77% 【運送収入】 ・H29年度実績:17,760,178円 ・目標値(106.73%):18,955,438円 ・H31年度実績:21,054,556円 ・達成率:111.07%  輸送人員は目標値及びH29年度実績のいずれも上回る事が出来なかったが、運送収入は目標、H29年度実績共に上回ることが出来た。	調査結果に基づき、時間ごとの利用目的、集中する時間帯などダイヤの見直しを行うことにより、通院以外で利用して頂けるよう努める。 また、利用客の多いバス停留所への上屋設置、住宅街付近への新たな停留所設置を行い、利用者の増加に努める。
対馬交通株式会社 縦貫線	2. 縦貫線(対馬病院～空港・仁位～国際ターミナル)	国際ターミナル内にある対馬観光物産協会カウンターにて、1日フリーパス券(韓国語表記)の販売を委託するとともに、韓国人向けパンフレットへの時刻表掲載等を依頼し販売促進を行った。	A 事業は適切に実施された	B 【輸送人員】 ・H29年度実績:131,735人 ・目標値(102.47%):134,989人 ・H31年度実績:139,967人 ・達成率:103.68% 【運送収入】 ・H29年度実績:41,275,818円 ・目標値(106.73%):44,053,681円 ・H31年度実績:40,455,031円 ・達成率:91.83%  輸送人員については目標値及びH29年度実績いずれも上回る事が出来たが、運送収入は目標、H29年度実績共に上回ることが出来なかった。	韓国からの高速船運休・減便に伴い、バス利用客の減少に対する対策が必要。 また、この系統に接続できる他系統のバス時刻等も見直し、輸送人員の増加に努め、増収を図る。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月15日

協議会名:長崎県バス対策協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
JR九州バス(株) 嬉野線	彼杵駅～嬉野温泉・嬉野医療センター・武雄温泉南口・ゆめタウン～たけお競輪場の運行	<p>運行便の乗車状況データを参考に、車両運用の効率化も踏まえ、嬉野医療センター移転に伴う路線の再編及びたけお競輪場までの延伸を行ったほか、インバウンド客への対応のために多言語翻訳機を乗務員に持たせて利便性の向上を図った。</p> <p>また、高齢者用の定期券の周知を行い、利用者増を図るとともに、ホームページをスマホ対応に改修し、沿線の観光地やお得な情報についてコンテンツに盛り込んだ内容にリニューアルするなど、既存客の利便性向上と新規利用の取込みを図った。</p>	A 計画通り事業は適切に実施された。	<p>【経常収益】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29年度実績:26,770,400円</li> <li>・目標:27,038,104円(H29の1%増)</li> <li>・H31年度実績:23,457,265円</li> <li>・目標との差額:▲3,580,839円(86.8%)</li> </ul> <p>【輸送人員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29年度実績:68,052人</li> <li>・目標:68,754人(H29実績値+702人)</li> <li>・H31年度実績:63,646人</li> <li>・目標との差額:▲5,108人(92.6%)</li> </ul> <p>【運送収入】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29年度実績:25,976,013円</li> <li>・H31年度実績:22,759,789円</li> <li>・H29実績値との差額:▲3,216,224円(87.6%)</li> </ul> <p>※インバウンドの減少及び彼杵方面の利用者の減少に歯止めがかからない状況である。</p>	<p>輸送人員が減少している路線であり、利用促進の広報活動を継続していく。</p> <p>また、将来の新幹線開通を考えた輸送体系と観光等の交通網としても事業者と沿線自治体が一体となって検討していく。</p>

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表  
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年3月30日

九州運輸局

評価対象事業名:地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今 後の改善点	評価結果	
熊本県バス 対策協議会	熊本バス(株) 九州産交バス(株) 産交バス(株) 熊本電気鉄道(株) 西鉄バス大牟田(株) 南国交通(株)	37系統 ※詳細は別添 一次評価のと おり	別添一次評価の とおり	A評価:36系統 B評価:1系統 C評価:0系統	A評価:24系統 B評価:11系統 C評価:2系統 【参考:前年度】 A評価:24系統 B評価:12系統 C評価:0系統	別添一次評価 のとおり	<p>・新しいバスロケーションシステムの導入や案内記号の見直し(漢字+数字→アルファベット+数字)、他系統や他の交通機関との乗継強化や利用実態に即したダイヤの改正や施設への乗り入れ、チラシの配布、乗り方教室の開催、新入生を対象とした学校への案内等利用促進に取り組まれていることを評価します。</p> <p>・生産性向上に関するWG等を地域毎に開催して、検討や意見交換を行い、関係市町村及び事業者が目標の達成に向け取り組みを行っていくことの共通認識が図られていることを評価します。引き続き、地域間幹線系統における生産性向上の取り組みの着実な実施を期待します。</p> <p>・生活路線と観光利用は必ずしも一致しないこともありますので、利用者の実態把握、利用者増減の要因分析を行い、地域特性を踏まえた対応策を考えていくことが重要です。また、乗り方教室等のイベントは「知ってもらう」「乗ってみる」の先の「乗り続ける」という視野まで広げていただき、乗り続けたいと思う仕組みを進めていくことが重要です。今後も県と市町村が連携を図り、事業者や住民と共に持続可能な効率的で利便性の高いネットワークが維持改善されることを期待します。</p>	評価指標 【一日当たり 輸送人員】

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月24日

協議会名: 熊本県バス対策協議会

評価対象事業名: 令和元年度地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
熊本バス(株)	1 直行線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標32.0人/日に対して40.0人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して観光目的や乗り方教室等利用促進に努める。
熊本バス(株)	2 砥用線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標17.1人/日に対して16.2人/日であった。目標を下回った原因として、通学及び買い物目的の利用者が想定より少なかったことが考えられる。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して観光目的や乗り方教室等利用促進に努める。
熊本バス(株)	3 辺場・甲佐線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標23.4人/日に対して30.1人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して乗り方教室等利用促進に努める。
熊本バス(株)	4 辺場線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標17.9人/日に対して20.8人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して観光目的や乗り方教室等利用促進に努める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
熊本バス(株)	5 御船・甲佐線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標29.4人/日に対して36.9人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して乗り方教室等利用促進に努める。
熊本バス(株)	6 健軍・砥用線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標28.9人/日に対して31.5人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して観光目的や乗り方教室等利用促進に努める。
熊本バス(株)	7 健軍線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標49.5人/日に対して54.9人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して乗り方教室等利用促進に努める。
熊本バス(株)	8 健軍・イオン線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標33.6人/日に対して44.5人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して乗り方教室等利用促進に努める。
熊本バス(株)	9 宇土線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標16.1人/日に対して18.2人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して乗り方教室等利用促進に努める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
熊本バス(株)	10 松橋線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標15.5人/日に対して19.6人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して乗り方教室等利用促進に努める。
熊本バス(株)	11 画図線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標18.4人/日に対して20.7人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して乗り方教室等利用促進に努める。
熊本バス(株)	12 乙女線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標20.5人/日に対して23.4人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して乗り方教室等利用促進に努める。
熊本バス(株)	13 中病・イオン線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標86.1人/日に対して95.7人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して乗り方教室等利用促進に努める。
熊本バス(株)	14 江津・イオン線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標78.7人/日に対して85.7人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して乗り方教室等利用促進に努める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
熊本バス(株)	15 セイラ・イオン線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標32.6人/日に対して38.7人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して乗り方教室等利用促進に努める。
熊本バス(株)	16 城南・志導寺線	沿線の状況把握に努め、現状に即した運行ダイヤ作成及び運行時刻変更を行い利便性向上に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標19.2人/日に対して19.2人/日であった。	利用状況のデータ等を基に、更なる効率的な運行ダイヤへの見直しを行い利便性向上を図る。また、関係自治体と連携して乗り方教室等利用促進に努める。
九州産交バス(株)	1 川尻バイパス経由センター松橋線	再編を実施済であるため大きな改正は実施していない。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標27.4人/日に対して26.9人/日であった。 利用促進策として「休日100円ちよいのり」を実施したが、未達であった。	関係自治体との連携を強化し、利用促進を図る。
産交バス(株)	1 健軍・東無田経由 熊本・御船線	路線の利用実態を把握し、利便性向上に向けた検討を行った。また沿線の学校へ出向き、定期券販売の説明会などPR活動を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標16.7人/日に対して17.4人/日であった。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。
産交バス(株)	2 江田経由 熊本・南関線	R01.10再編計画実施に向け、関係市町と利用実態に即した、ダイヤ・系統を検討した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標16.5人/日に対して15.9人/日であった。下回った要因として、通学及び買物目的での利用者が減少したことが考えられる。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。



①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
産交バス(株)	3 河内経由 熊本・玉名線	R01.10再編計画実施に向け、関係市町と利用実態に即した、ダイヤ・系統を検討した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標32.3人/日に対して29.4人/日であった。下回った要因として、通学及び買物目的での利用者が減少したことが考えられる。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。
産交バス(株)	4 河内・伊倉バイパス経由 熊本・玉名線	R01.10再編計画実施に向け、関係市町と利用実態に即した、ダイヤ・系統を検討した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標21.0人/日に対して18.3人/日であった。下回った要因として、通学及び買物目的での利用者が減少したことが考えられる。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。
産交バス(株)	5 植木・大倉経由 熊本・玉名線	R01.10再編計画実施に向け、関係市町と利用実態に即した、ダイヤ・系統を検討した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標36.2人/日に対して32.7人/日であった。下回った要因として、通学及び買物目的での利用者が減少したことが考えられる。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。
産交バス(株)	6 植木・梅林経由 熊本・玉名線	R01.10再編計画実施に向け、関係市町と利用実態に即した、ダイヤ・系統を検討した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標18.4人/日に対して17.3人/日であった。下回った要因として、通学及び買物目的での利用者が減少したことが考えられる。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。
産交バス(株)	7 菊池経由 山鹿・大津線	H31.4菊池市民広場への乗り入れを実施し、観光での利用や実態に即したダイヤ・系統設定を行い、利便性向上に向けたダイヤ改正を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標30.6人/日に対して28.5人/日であった。下回った要因として、高校生の通学目的での利用が減少したことが考えられる。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
産交バス(株)	8 手野・二江經由 本渡・富岡線	路線の利用実態を把握し、利便性向上に向けた検討を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標26.9人/日に対して26.9人/日であった。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。
産交バス(株)	9 労働庁舎經由 本渡・鬼池線	路線の利用実態を把握し、利便性向上に向けた検討を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標16.8人/日に対して15.6人/日であった。下回った要因として、天草市街地への通院や買物目的での利用が減少したことが考えられる。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。
産交バス(株)	10 一町田中央・久玉經由 本渡・牛深線	H31.4快速あまくさ号との乗り継ぎ強化と、利便性向上に向けたダイヤ改正を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標16.8人/日に対して16.8人/日であった。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。
産交バス(株)	11 桜山經由 玉名市役所・荒尾線	路線の利用実態を把握し、今後の利便向上に向けた検討を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標30.7人/日に対して33.2人/日であった。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。
産交バス(株)	12 堅志田經由 松橋・砥用線	H30.10地域の温泉施設への乗り入れを実施し、利用実態に即したダイヤ・系統設定を行い、利便性向上に向けたダイヤ改正を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標17.8人/日に対して18.8人/日であった。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
産交バス(株)	13 宮原経由 松橋・八代線	H31.4大型ショッピングセンターに乗り入れを実施し、利用実態に即したダイヤ・系統設定を行い、利便性向上に向けたダイヤ改正を実施した。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 目標16.3人/日に対して14.2人/日であった。下回った要因として、乗入れを実施した区域での一定量の利用増はあったが、その他沿線地区以外での利用が減少したことが考えられる。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。
産交バス(株)	14 鏡・種山経由 八代・八農分校線	路線の利用実態を把握し、利便性向上に向けた検討を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標27.0人/日に対して6.9人/日であった。下回った要因として、計画策定において、過去の実績がなく、収入見込額を経常費用見込額の11/20にて設定したことによる実績との乖離と、高校生の通学目的での利用が減少したことが考えられる。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。
産交バス(株)	15 テクノ団地経由 熊本・高森線	路線の利用実態を把握し、利便性向上に向けた検討を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 目標37.6人/日に対して38.0人/日であった。	生活交通利用のみならず、観光利用も視野に入れたPR活動や、学校また地域コミュニティでの乗り方教室等の広報活動を実施する。
熊本電気鉄道(株)	1 256北バイパス線	路線の運行実態を調査し、ダイヤ設定の見直しを行い利便性の向上を図ると共に、沿線の大学・高校を対象に利用促進を行った。また、関係自治体と連携しHP、広報誌の活用し配布等を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標値22.5人/日に対して23.4人/日であった。	事業者及び関係市町村が連携し、地域住民に対し利用促進の継続に努める。また、運行実態を分析し運行遅延の縮小に向けたダイヤ改正の実施。
熊本電気鉄道(株)	2 377新地団地線 (合志市役所)	路線の運行実態を調査し、ダイヤ設定の見直しを行い利便性の向上を図ると共に、沿線の大学・高校を対象に利用促進を行った。また、関係自治体と連携しHP、広報誌の活用し配布等を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標値21.2人/日に対して23.2人/日であった。	事業者及び関係市町村が連携し、地域住民に対し利用促進の継続に努める。また、運行実態を分析し運行遅延の縮小に向けたダイヤ改正の実施。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
西鉄バス大牟田(株)	1 西鉄大牟田営業所～大牟田市立病院・上町～庄山	<p>事業評価結果を踏まえ、以下の取り組みを行うようにした。</p> <p>(1) 沿線の工業団地や、戸建て住宅や集合団地、三池工業高校など沿線沿いの施設等に対してピンポイントに利用促進の呼びかけ、ポスティングを行い潜在的な利用ニーズの掘り起しを図る。</p> <p>(2) 大牟田市動物園の来園者を主なターゲットとして、「延命公園・動物園前」バス停の新設によりアクセスが向上したことをPRし、利用者の増加を図る。</p>	A 計画通り事業は適切に実施された。	C 目標値15.4人/日に対して11.7人/日であった。	収支が改善されるよう、ポスティングやバス路線沿線で運転士体験の実施など、利用促進策に関する検討を行い、効果が見込まれる取り組みについて導入を図る。
西鉄バス大牟田(株)	2-1 西鉄大牟田営業所～大牟田市立病院・新大牟田駅～南関(～3/22)	<p>事業評価結果を踏まえ、以下の取り組みを行うようにした。</p> <p>(1) 沿線の工業団地や、戸建て住宅や集合団地、県立高校など沿線沿いの施設等に対してピンポイントに利用促進の呼びかけ、ポスティングを行い潜在的な利用ニーズの掘り起しを図る。</p>	B 事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった。	A 目標値47.9人/日に対して54.8人/日であった。	収支が改善されるよう、ポスティングやバス路線沿線で運転士体験の実施など、利用促進策に関する検討を行い、効果が見込まれる取り組みについて導入を図る。
	2-2 西鉄大牟田営業所～延命公園動物園前・大牟田市立病院・新大牟田駅～南関(3/23～)	<p>(2) 九州新幹線との接続を意識したダイヤ改正を行うことにより、利用者の増加を図る。</p> <p>(3) 大牟田市動物園の来園者を主なターゲットとして、「延命公園・動物園前」バス停の新設によりアクセスが向上したことをPRし、利用者の増加を図る。</p>	B 事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった。	B 目標値47.9人/日に対して40.0人/日であった。	

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
南国交通(株)	1 水俣線 (佐潟口・水俣車庫線)	路線再編を実施後の動向調査を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標25.7人/日に対して26.5人/日であった。	現在の運行を継続しつつ、引き続き事業者及び関係市と連携しながら状況把握に努めることとGoogleや時刻検索サイトへの情報提供を今まで以上に積極的に実施する。

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表 (生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年3月30日

九州運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
大分県地域間生活交通確保維持協議会	大分バス(株) 大野竹田バス(株) 臼津交通(株) 大分交通(株) 大交北部バス(株)	25系統 ※詳細は別添一次評価のとおり	別添一次評価のとおり	A評価: 19系統 B評価: 0系統 C評価: 0系統	A評価: 6系統 B評価: 11系統 C評価: 8系統  【参考: 前年度】 A評価: 3系統 B評価: 7系統 C評価: 9系統	別添一次評価のとおり	<p>・3社共同の新しいバスロケーションシステムの導入、企画乗車券の販売促進、網形成計画に基づいた運行ルートやダイヤの改正等利用促進に取り組まれていることを評価します。</p> <p>・生産性向上に関するWG等を地域毎に開催して、検討や意見交換を行い、関係市町村及び事業者が目標の達成に向け取り組みを行っていくことの共通認識が図られていることを評価します。引き続き、地域間幹線系統における生産性向上の取り組みの着実な実施を期待します。</p> <p>・県内を6圏域に分け、県が主導して順次地域公共交通網形成計画・地域公共交通再編実施計画の策定に取り組まれており、既に4つの圏(北部圏・豊肥圏・南部圏・中部圏)において地域公共交通再編実施計画を策定するなど、地域公共交通の確保維持のための施策を着実に進められていることを高く評価します。今後も各市町村の交通計画において地域間幹線系統についても検討・取り組みの対象となるよう、働きかけて行くことを期待します。</p> <p>・生活路線と観光利用は必ずしも一致しないこともありますので、利用者の実態把握、利用者増減の要因分析を行い、地域特性を踏まえた対応策を考えていくことが重要と考えます。今後も県と市町村が連携を図り、事業者や住民と共に持続可能な効率的で利便性の高いネットワークが維持改善されることを期待します。</p>	評価指標 【輸送人員】 【運送収入】

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月24日

協議会名:大分県地域間生活交通確保維持協議会

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大分バス(株) 臼杵線	金池ターミナル ～県立病院 ～臼杵港フェリーターミナル	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県豊肥圏地域公共交通網形成計画」、「大分県豊肥圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。 【目標:計画運行回数】 2,766.0 【実績:実績運行回数】 2,766.0	B 一部目標を達成できなかった(輸送人員は目標を達成したが、運送収入が目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 130,000人 【実績】 136,829人 (達成度105.3%) ・運送収入 【目標】 31,110,000円 【実績】 30,498,078円 (達成度98.0%)	平成28年度に策定した大分県豊肥圏地域公共交通網形成計画、本年度に更新した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。
大分バス(株) 伯大線(急行)	金池ターミナル ～県立病院入口 ～佐伯駅  H25～H27 車両購入1台/年 H30 車両購入1台/年 R1 車両購入1台/年	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県南部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県南部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。 【目標:計画運行回数】 1,940.5 【実績:実績運行回数】 1,940.5	B 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入ともに目標を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 170,000人 【実績】 169,426人 (達成度99.7%) ・運送収入 【目標】 73,609,000円 【実績】 61,622,917円 (達成度83.7%) ※実績値は、伯大線(急行)・伯大線(コスモタウン)の計 ※伯大線(急行)については、車両償却費補助費も反映して目標値を設定。	平成29年度に策定した大分県南部圏地域公共交通網形成計画、平成30年度に策定した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大分バス(株) 上浦線	西田病院 ～長田 ～蒲戸	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県南部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県南部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(台風の影響によるやむをえない事情により、2.0回の運休があった)。 【目標:計画運行回数】 2,398.0 【実績:実績運行回数】 2,396.0	B 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入ともに目標を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 57,632人 【実績】 57,159人 (達成度99.2%) ・運送収入 【目標】 12,500,000円 【実績】 11,313,837円 (達成度90.5%)	平成29年度に策定した大分県南部圏地域公共交通網形成計画、平成30年度に策定した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。
大分バス(株) 今市線	県庁正門前 ～野津原・今市 ～上原 H28車両購入2台(今市・野津原・今畑・わさだタウンに導入)	「大分県地域間幹線バス系統実態調査事業」の調査結果及び「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県中部圏地域公共交通網形成計画」に基づき、運行ルートやダイヤの見直し、利用状況に応じた増便や減便、系統の分割や統合等について検討した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。 【目標:計画運行回数】 1,355.0 【実績:実績運行回数】 1,355.0	A 輸送人員、運送収入ともに目標を達成することができた。 ・輸送人員 【目標】 79,077人 【実績】 80,735人 (達成度102.1%) ・運送収入 【目標】 14,943,189円 【実績】 16,437,357円 (達成度110.0%)	平成29年度に策定した大分県中部圏地域公共交通網形成計画の進捗管理を適切に行うほか、再編実施計画の内容について引き続き検討を進めるとともに、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。



①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大分バス(株) 野津原線	県庁正門前 ～野津原 ～上原  H28車両購入2台(今市・野津原・今畑・わさだタウンに導入)	「大分県地域間幹線バス系統実態調査事業」の調査結果及び「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県中部圏地域公共交通網形成計画」に基づき、運行ルートやダイヤの見直し、利用状況に応じた増便や減便、系統の分割や統合等について検討した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。  【目標:計画運行回数】 3,585.0 【実績:実績運行回数】 3,585.0	A 輸送人員、運送収入ともに目標を達成することができた。 ・輸送人員 【目標】 117,103人 【実績】 143,779人 (達成度122.8%) ・運送収入 【目標】 23,639,836円 【実績】 29,496,728円 (達成度124.8%)	平成29年度に策定した大分県中部圏地域公共交通網形成計画の進捗管理を適切に行うほか、再編実施計画の内容について引き続き検討を進めるとともに、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。
大分バス(株) 今畑線	県庁正門前 ～野津原 ～今畑  H28車両購入2台(今市・野津原・今畑・わさだタウンに導入)	「大分県地域間幹線バス系統実態調査事業」の調査結果及び「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県中部圏地域公共交通網形成計画」に基づき、運行ルートやダイヤの見直し、利用状況に応じた増便や減便、系統の分割や統合等について検討した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。  【目標:計画運行回数】 1,148.0 【実績:実績運行回数】 1,148.0	A 輸送人員、運送収入ともに目標を達成することができた。 ・輸送人員 【目標】 44,263人 【実績】 48,347人 (達成度109.2%) ・運送収入 【目標】 10,027,221円 【実績】 10,154,755円 (達成度101.3%)	平成29年度に策定した大分県中部圏地域公共交通網形成計画の進捗管理を適切に行うほか、再編実施計画の内容について引き続き検討を進めるとともに、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大分バス(株) 佐賀関線	大分駅前 ～鶴崎 ～佐賀関  H24 車両購入2台/年 H25～H27 車両購入1台/年 H30 車両購入1台/年	「大分県地域間幹線バス系統実態調査事業」の調査結果及び「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県中部圏地域公共交通網形成計画」に基づき、運行ルートやダイヤの見直し、利用状況に応じた増便や減便、系統の分割や統合等について検討した。	事業は、計画どおり適切に実施された。  A 【目標:計画運行回数】 6,454.0 【実績:実績運行回数】 6,454.0	B 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入が目標値を下回る結果となった)。 【目標】 443,164人 【実績】 418,154人 (達成度94.4%) ・運送収入 【目標】 100,228,830円 【実績】 93,869,347円 (達成度93.5%)	平成29年度に策定した大分県中部圏地域公共交通網形成計画の進捗管理を適切に行うほか、再編実施計画の内容について引き続き検討を進めるとともに、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。
大分バス(株) 野津原(わさだタウン)線	県庁正門前 ～トキハわさだタウン ～上原  H28車両購入2台(今市・野津原・今畑・わさだタウンに導入)	「大分県地域間幹線バス系統実態調査事業」の調査結果及び「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県中部圏地域公共交通網形成計画」に基づき、運行ルートやダイヤの見直し、利用状況に応じた増便や減便、系統の分割や統合等について検討した。	事業は、計画どおり適切に実施された。  A 【目標:計画運行回数】 1,459.0 【実績:実績運行回数】 1,459.0	A 輸送人員、運送収入ともに目標を達成することができた。 ・輸送人員 【目標】 53,148人 【実績】 66,744人 (達成度125.6%) ・運送収入 【目標】 10,242,686円 【実績】 11,135,150円 (達成度108.7%)	平成29年度に策定した大分県中部圏地域公共交通網形成計画の進捗管理を適切に行うほか、再編実施計画の内容について引き続き検討を進めるとともに、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大分バス(株) 竹田線①	金池ターミナル ～県立病院 ～道の駅おおの	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県豊肥圏地域公共交通網形成計画」、「大分県豊肥圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。 【目標:計画運行回数】 1,092.0 【実績:実績運行回数】 1,092.0	B 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入が目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 55,000人 【実績】 54,772人 (達成度99.6%) ・運送収入 【目標】 15,143,000円 【実績】 12,098,241円 (達成度79.9%) ※目標値及び実績値は、竹田線①・②の計	沿線人口の減少等により大きく落ち込んでいる輸送量の回復が今後も見込めないことから、令和元年10月1日をもって廃止。
大分バス(株) 伯大線(コスモタウン)	金池ターミナル ～県立病院・コスモタウン ～佐伯駅	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県南部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県南部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(台風の影響によるやむをえない事情により、0.5回の運休があった)。 【目標:計画運行回数】 1,575.0 【実績:実績運行回数】 1,574.5	B 一部目標を達成できなかった(輸送人員は目標を達成したが、運送収入が目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 164,750人 【実績】 169,426人 (達成度102.9%) ・運送収入 【目標】 73,676,000円 【実績】 61,622,917円 (達成度83.6%) ※実績値は、伯大線(急行)・伯大線(コスモタウン)の計	平成29年度に策定した大分県南部圏地域公共交通網形成計画、平成30年度に策定した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大分バス(株)  鶴見線	佐伯駅 ～鶴見地区公民館前	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県南部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県南部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A  事業は、計画どおり適切に実施された(台風の影響によるやむをえない事情により、1.5回の運休があった)。  【目標:計画運行回数】 1,640.5 【実績:実績運行回数】 1,639.0	A  輸送人員、運送収入ともに目標を達成することができた。 ・輸送人員 【目標】 24,992人 【実績】 27,192人 (達成度108.8%) ・運送収入 【目標】 5,660,000円 【実績】 9,132,991円 (達成度161.4%)	平成29年度に策定した大分県南部圏地域公共交通網形成計画、平成30年度に策定した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。
大分バス(株)  米水津線	佐伯駅 ～米水津振興局	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県南部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県南部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A  事業は、計画どおり適切に実施された。(台風の影響によるやむをえない事情により、1.0回の運休があった。)  【目標:計画運行回数】 1,330.0 【実績:実績運行回数】 1,329.0	C  目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入が目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 29,254人 【実績】 19,409人 (達成度66.3%) ・運送収入 【目標】 9,619,000円 【実績】 5,983,154円 (達成度62.2%)	平成29年度に策定した大分県南部圏地域公共交通網形成計画、平成30年度に策定した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大分バス(株) 青山経由蒲江線	佐伯駅 ～山口 ～道の駅かまえ	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県南部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県南部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(台風の影響によるやむをえない事情により、1.5回の運休があった)。 【目標:計画運行回数】 1,640.5 【実績:実績運行回数】 1,639.0	C 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入が目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 44,837人 【実績】 27,312人 (達成度60.9%) ・運送収入 【目標】 21,283,000円 【実績】 13,435,096円 (達成度63.1%)	平成29年度に策定した大分県南部圏地域公共交通網形成計画、平成30年度に策定した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。
大分バス(株) 直川線	海の市場まる ～コスモタウン ～直川振興局	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県南部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県南部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(台風の影響によるやむをえない事情により、1.5回の運休があった)。 【目標:計画運行回数】 1,442.0 【実績:実績運行回数】 1,440.5	C 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入が目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 43,470人 【実績】 19,685人 (達成度45.3%) ・運送収入 【目標】 14,019,000円 【実績】 5,829,912円 (達成度41.6%)	平成29年度に策定した大分県南部圏地域公共交通網形成計画、平成30年度に策定した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大分バス(株) 大野竹田バス(株)  竹田線② (共同運行)	道の駅おおの ～宮林署前 ～扇森稻荷神社	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県豊肥圏地域公共交通網形成計画」、「大分県豊肥圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。  【目標:計画運行回数】 1,561.0 【実績:実績運行回数】 1,561.0	B 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入が目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 55,000人 【実績】 54,772人 (達成度99.6%) ・運送収入 【目標】 15,143,000円 【実績】 12,098,241円 (達成度79.9%) ※目標値及び実績値は、竹田線①・②の計	沿線人口の減少等により大きく落ち込んでいる輸送量の回復が今後も見込めないことから、令和元年10月1日をもって廃止。
大野竹田バス(株)  長湯線	扇森稻荷神社 ～久住 ～直入支所	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県豊肥圏地域公共交通網形成計画」、「大分県豊肥圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。  【目標:計画運行回数】 3,143.0 【実績:実績運行回数】 3,143.0	C 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入ともに目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 32,000人 【実績】 21,788人 (達成度68.1%) ・運送収入 【目標】 15,789,000円 【実績】 11,121,627円 (達成度70.4%)	平成28年度に策定した大分県豊肥圏地域公共交通網形成計画、本年度に更新した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大野竹田バス(株) 臼津交通(株)  臼三線 (共同運行)	大野竹田バス本社 ～野津市石仏 ～臼杵港	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県豊肥圏地域公共交通網形成計画」、「大分県豊肥圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A	事業は、計画どおり適切に実施された。  【目標:計画運行回数】 2,422.0 【実績:実績運行回数】 2,422.0	B  一部目標を達成できなかった(運送収入は目標を達成したが、輸送人員が目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 40,300人 【実績】 34,409人 (達成度85.4%) ・運送収入 【目標】 15,356,000円 【実績】 16,537,028円 (達成度107.7%)	平成28年度に策定した大分県豊肥圏地域公共交通網形成計画、本年度に更新した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。
大分交通(株)  国大線	大分駅前 ～田深 ～国東  H22～ 車両購入1台/年	「大分県地域間幹線バスシステム実態調査事業」の調査結果に基づき、運行ルートやダイヤの見直し、利用状況に応じた増便や減便、システムの分割や統合等について検討した。	A	事業は、計画どおり適切に実施された。  【目標:計画運行回数】 3,086.0 【実績:実績運行回数】 3,086.0	C  目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入ともに目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 264,001人 【実績】 198,889人 (達成度75.3%) ・運送収入 【目標】 70,255,276円 【実績】 45,805,539円 (達成度65.2%)	本年度策定予定の大分県東部圏地域公共交通網形成計画に基づいて、今後策定する予定の大分県東部圏再編実施計画において、利用者増や運行効率の改善等を含めた具体的な路線の再編について検討を進める。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大交北部バス(株) 中日線①	中津駅前 ～新万田・旬菜館 ～守実温泉 H22車両購入1台	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県北部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県北部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(台風等の影響によるやむをえない事情により、7.0回の運休があった)。 【目標:計画運行回数】 2,770.0 【実績:実績運行回数】 2,763.0	C 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入ともに目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 95,000人 【実績】 83,293人 (達成度87.7%) ・運送収入 【目標】 39,155,000円 【実績】 27,392,922円 (達成度70.0%) ※目標値及び実績値は、中日線①・②・③の計	平成28年度に策定した大分県北部圏地域公共交通網形成計画、本年度に更新した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。
大交北部バス(株) 中日線②	中津駅前 ～新万田 ～耶馬溪(旬菜館) H22車両購入1台	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県北部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県北部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、ほぼ計画どおり適切に実施された(13.5回の運休のうち、台風等の影響によるやむをえない事情によるものは、7.5回)。 【目標:計画運行回数】 1,817.0 【実績:実績運行回数】 1,803.5	C 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入ともに目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 95,000人 【実績】 83,293人 (達成度87.7%) ・運送収入 【目標】 39,155,000円 【実績】 27,392,922円 (達成度70.0%) ※目標値及び実績値は、中日線①・②・③の計	平成28年度に策定した大分県北部圏地域公共交通網形成計画、本年度に更新した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。



①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大交北部バス(株) 中日線③	耶馬溪(旬菜館) ~医療センター前 ~日田 H22車両購入1台	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県北部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県北部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、ほぼ計画どおり適切に実施された(13.0回の運休のうち、台風等の影響によるやむをえない事情によるものは、7.0回)。 【目標:計画運行回数】 1,698.0 【実績:実績運行回数】 1,685.0	C 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入ともに目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 95,000人 【実績】 83,293人 (達成度87.7%) ・運送収入 【目標】 39,155,000円 【実績】 27,392,922円 (達成度70.0%) ※目標値及び実績値は、中日線①・②・③の計	平成28年度に策定した大分県北部圏地域公共交通網形成計画、本年度に更新した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。
大交北部バス(株) 中安線	安心院 ~下田の口 ~中津駅前	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県北部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県北部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。 【目標:計画運行回数】 2,291.0 【実績:実績運行回数】 2,291.0	B 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入ともに目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 54,000人 【実績】 52,729人 (達成度97.6%) ・運送収入 【目標】 19,828,000円 【実績】 16,898,169円 (達成度85.2%) ※目標値及び実績値は、中安線・中字線の計	平成28年度に策定した大分県北部圏地域公共交通網形成計画、本年度に更新した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
大交北部バス(株) 中宇線	ミスターマックス宇佐店 ～中津駅前	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県北部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県北部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された。 【目標:計画運行回数】 841.0 【実績:実績運行回数】 841.0	B 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入ともに目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 【目標】 54,000人 【実績】 52,729人 (達成度97.6%) ・運送収入 【目標】 19,828,000円 【実績】 16,898,169円 (達成度85.2%) ※目標値及び実績値は、中安線・中宇線の計	本年度に更新した大分県北部圏地域公共交通再編実施計画に基づき、令和元年10月1日をもって廃止。
大交北部バス(株) 国道中高線	豊後高田 ～宇佐駅・宇佐市役所 ～四日市	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県北部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県北部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(台風の影響によるやむをえない事情により、3.0回の運休があった)。 【目標:計画運行回数】 3,965.0 【実績:実績運行回数】 3,962.0	A 輸送人員、運送収入ともに目標を達成することができた。 ・輸送人員 【目標】 35,000人 【実績】 39,611人 (達成度113.2%) ・運送収入 【目標】 8,628,000円 【実績】 9,407,412円 (達成度109.0%)	平成28年度に策定した大分県北部圏地域公共交通網形成計画、本年度に更新した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
大交北部バス(株) 伊美線	宇佐駅前 ～竹田津港・伊美港 ～伊美	「地域公共交通調査等事業」により策定した「大分県北部圏地域公共交通網形成計画」、「大分県北部圏地域公共交通再編実施計画」に基づき、運行効率の改善等を実施した。	A 事業は、計画どおり適切に実施された(台風の影響によるやむをえない事情により、3.5回の運休があった)。 <b>【目標:計画運行回数】</b> 2,904.0 <b>【実績:実績運行回数】</b> 2,900.5	B 目標を達成できなかった(輸送人員、運送収入ともに目標値を下回る結果となった)。 ・輸送人員 <b>【目標】</b> 38,500人 <b>【実績】</b> 36,061人 (達成度93.7%) ・運送収入 <b>【目標】</b> 17,170,000円 <b>【実績】</b> 17,143,452円 (達成度99.8%)	目標値の達成まであと一步というところであり、引き続き平成28年度に策定した大分県北部圏地域公共交通網形成計画、本年度に更新した再編実施計画の進捗管理を適切に行い、バス事業者、市町村等と連携し、バスの利用促進に取り組む。
(本協議会における評価基準) <b>●計画に対して</b> ・A…計画どおり、あるいはほぼ計画どおりに運行された。 ・B…計画に対してほぼ90%以上は運行された。 ・C…計画に対してほぼ90%以下の運行にとどまった。または、系統廃止となった。 <b>●目標・効果に対して</b> ・A…いずれの目標も達成した。 ・B…いずれかの目標を達成した。または、いずれの目標も達成していないが、いずれも目標に対しておよそ20%程度減のレベルまでは達成している。 ・C…いずれの目標も達成しておらず、目標に対しておよそ20%程度減のレベルまでも達成していない。			運行計画については、全25系統とも、ほぼ計画どおり運行されており、事業は適切に実施された。	<b>●輸送人員及び運送収入</b> 前年度実績値に沿線人口の直近3力年の平均増減率を乗じた値を維持する。(※再編特例対象の系統については、再編実施計画に記載されている目標値を使用。また、系統の再編にあたり、従前の補助対象系統を複数系統に分割した場合については、分割したそれぞれの系統の実績値の合計を再編実施計画に記載された目標値と比較する) <b>●車両導入系統</b> 輸送量の前年度実績値に沿線人口の直近3力年の平均増減率を乗じた値を維持する。 ・大分バス(株)2両 伯大線【輸送人員】目標 170,000人(達成度99.7%) 【運送収入】目標 73,609,000円(達成度83.7%) ～評価B 佐賀関線【輸送人員】目標 443,164人(達成度94.4%) 【運送収入】目標100,228,830円(達成度93.5%) ～評価B ・大分交通(株)1両 国大線【輸送人員】目標264,001人(達成度75.3%) 【運送収入】目標70,255,276円(達成度65.2%) ～評価C	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表  
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年3月30日

九州運輸局

評価対象事業名:地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
宮崎県バス対策協議会	宮崎交通(株) 鹿児島交通(株)	32系統 ※詳細は別添一次評価のとおり	別添一次評価のとおり	A評価:32系統 B評価:0系統 C評価:0系統	A評価:22系統 B評価:9系統 C評価:1系統 【参考:前年度】 A評価:16系統 B評価:16系統 C評価:0系統	別添一次評価のとおり	<p>・企画乗車券の販売促進、客貨混載の取組、車内での沿線観光地のマップ配布、学生向けの定期券説明会、高校生を対象としたアンケートの実施、利用案内リーフレットの配布、自治体による定期購入費補助等利用促進に取り組まれていることを評価します。</p> <p>・生産性向上に関するWG等を地域毎に開催して、検討や意見交換を行い、関係市町村及び事業者が目標の達成に向け取り組みを行っていくことの共通認識が図られていることを評価します。引き続き、地域間幹線系統における生産性向上の取り組みの着実な実施を期待します。</p> <p>・生活路線と観光利用は必ずしも一致しないこともありますので、利用者の実態把握、利用者増減の要因分析を行い、地域特性を踏まえた対応策を考えていくことが重要と考えます。また、乗り方教室や運転手体験等のイベントは「知ってもらう」「乗ってみる」の先の「乗り続ける」という視野まで広げていただき、乗り続けたいと思う仕組みを進めていくことが重要です。今後も県と市町村が連携を図り、事業者や住民と共に持続可能な効率的で利便性の高いネットワークが維持改善されることを期待します。</p>	評価指標 【1,000Km あたり人員】

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月22日

協議会名: 宮崎県バス対策協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)			
				評価	1000kmあたり人員(人)						
					目標	実績	達成率		理由		
宮崎交通(株)	1 延岡駅～原町～東細島～宮ノ上	左の系統の運行 H27車両導入2台 H28車両導入1台 H29車両導入2台 R1車両導入1台	日向・東臼杵地域公共交通再編実施計画における路線バス塚原線及び神門線のダイヤ改正にあわせて、当該路線のダイヤ改正を実施し、乗継利便性の向上を図る。また、JR日向市駅においてもJR九州の時刻にあわせたダイヤ改正を行い、輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	381	380	99.7%	おおむね目標どおりの結果となった。	1000kmあたり人員は目標に若干届かない結果となり、輸送量も補助要件割れとなった(14.6)。R1年10月より、利用が少なかったイオン日向～宮ノ上間を廃止し、同時にレーヨン線(申請番号27)へ統合。今後は事業者と自治体等が連携を図り、デマンド型タクシーなど新たな交通手段を用いながら、延岡～日向線全体の持続可能な運用を図っていく。
宮崎交通(株)	2 宮交シティ～高鍋駅～高鍋	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入1台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入3台 R1車両導入4台	「高鍋～持田団地～道の駅つもの線(申請番号3)」の施策にあわせて宮崎市からの需要を取り込むため、都農線の告知を宮崎～高鍋線で行い、結果同路線の輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	684	711	103.9%	おおむね目標どおりの結果となった。	引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。R2年度生産性向上の取組として「高鍋～持田団地～道の駅つもの線(申請番号3)」の施策にあわせて宮崎市からの需要を取り込むため、都農線の告知を宮崎～高鍋線で行い、結果同路線の輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	3 高鍋～持田団地～道の駅つもの	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入1台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入3台 R1車両導入4台	人口密集地域(宮崎市)でラッピング車(計3台)により告知を行うことで、輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	166	176	105.8%	通勤、高齢者の利用が増加。	引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。R2年度生産性向上の取組として、高齢者へのアプローチ(乗り方教室やチャリン等での周知)や、幼稚園・小学校の校外学習等に当該路線を活用し将来のバス利用につなげる。

①補助対象事業者等		②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)			
					評価	1000kmあたり人員(人)						
						目標	実績	達成率		理由		
宮崎交通(株)	4	宮交シティ～高鍋～木城温泉館湯らら	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入1台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入3台 R1車両導入4台	当該路線利用者へ木城温泉湯ららで利用可能な特典の付与(入湯料の割引)。同時に上記施策の告知を自社チラシ等で行い、輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	628	614	97.7%	おおむね目標どおりの結果となった。	現金利用者が若干減少しているのに加え、当該路線の利用者の中で大きな割合は占めていないものの、通学定期の利用者も減少している。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、沿線の温泉施設との利用促進策や木城町乗合タクシーとの接続を図ることで、利便性を高め輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	5	宮交シティ～光陽台	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入2台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入4台 R1車両導入4台	ナイトバス(23時以降発のバス)の運行時間短縮を行い、利便性を向上させることで輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	997	1,090	109.3%	高齢者利用が増加。	ICカード全体では減少したものの、高齢者利用が増加。また、現金客も若干伸びた。引き続き事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、H31.2に実施した運行効率化の効果検証を行い、今後の在り方を検討していく。
宮崎交通(株)	6	延岡駅～青雲橋・日之影町立病院～高千穂	左の系統の運行 H27車両導入2台 H28車両導入1台 H29車両導入2台 R1車両導入1台	客貨混載の継続と、コミュニティバスでの当該路線告知による地元需要の取り込みや、車内での高千穂観光マップ配布による観光需要確保を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C	191	142	74.6%	通学利用が減少。	延岡～高千穂間は前年に引き続き、通学定期利用の減少が大きく、目標を達成できなかった。学生を取り巻く環境も変わっていることから、今後は観光需要に即した取り組みを実践していく。 R2年度生産性向上の取組として、客貨混載事業の継続と沿線施設と連携した利用促進キャンペーンを行い、観光需要の創出を行い、輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	7	延岡駅～日之影駅～高千穂	左の系統の運行 H27車両導入2台 H28車両導入1台 H29車両導入2台 R1車両導入1台	コミュニティバスでの当該路線告知による地元需要の取り込みや、車内での高千穂観光マップ配布による観光需要確保を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	121	122	101.0%	おおむね目標どおりの結果となった。	延岡管内の通勤定期(延岡市街地～北方地区)が若干伸び、目標を達成。 R2年度生産性向上の取組として、沿線施設と連携した利用促進キャンペーンを行い、観光需要の創出を行い、輸送量の増加を図る。

①補助対象事業者等		②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)			
					評価	1000kmあたり人員(人)						
						目標	実績	達成率		理由		
宮崎交通(株)	8	宮交シティ～西佐土原～西都	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入2台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入4台 R1車両導入4台	拠点施設である西都バスセンターでの西都市コミュニティバスとの接続を強化し輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	733	691	94.2%	通学利用が減少。	通学利用や現金客の利用が減少したこともあり、目標未達成となった。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、沿線の商業施設への乗入れや市内のイベント等でPRを行い、輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	9	宮崎空港～福祉C～小林駅	左の系統の運行	小林市による高等学校通学費補助(定期購入費の月5,000円を超える額)実施により通学需要の取り込みを図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	403	434	107.8%	通学利用が増加。	通学利用ならびに高齢者利用の増加により、目標を達成。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、小林市による高校生通学補助を継続し、沿線の高校への周知を行うことで、輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	10	宮崎～宮崎空港～鶴戸神宮～飫肥	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入2台 H27車両導入4台 H28車両導入4台 H29車両導入4台 H30車両導入4台 R1車両導入4台	コミュニティバスでの当該路線告知による地元需要の取り込みや、車内での日南観光マップ配布による観光需要確保を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	507	607	119.7%	インバウンドを含む観光利用者の増加	昨年度と比して特に現金・回数券利用者の伸びが大きいため、観光客やインバウンドの外国人の利用増と思われる。引き続き事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組としてコミュニティバスでの当該路線告知による地元需要の取り込みや、インバウンド向け観光マップ多言語化やクルーズ船来航の際の結節強化等による観光需要確保を図る。
宮崎交通(株)	11	宮交シティ～国富～綾	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入1台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入3台 R1車両導入4台	主な利用層である高校生を対象としたアンケート実施による意見集約・分析を実施するとともに、綾町及び国富町内中学生を対象に、高校進学前の定期券説明会を実施することで通学需要の取り込みを図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	753	762	101.2%	おおむね目標どおりの結果となった。	申請番号13の終点までは、申請11及び12の大半の経路が重複しており、それぞれの申請番号で利用者が入れ替わっている側面もあったが、目標には到達した。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、国富地区や宮崎北地区のコミュニティとの結節を検討し、輸送量の増加を図る。

①補助対象事業者等			②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)		
						評価	1000kmあたり人員(人)					
							目標	実績	達成率		理由	
宮崎交通(株)	12	宮崎駅～一の鳥居～綾～酒泉の杜	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入1台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入3台 R1車両導入4台	主な利用層である高校生を対象としたアンケート実施による意見集約・分析を実施するとともに、綾町及び国富町内中学生を対象に、高校進学前の定期券説明会を実施することで通学需要の取り込みを図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	673	692	102.9%	おおむね目標どおりの結果となった。	申請番号13の終点までは、申請11及び12の大半の経路が重複しており、それぞれの申請番号で利用者が入れ替わっている側面もあったが、目標には到達した。しかし、減少傾向はやや緩やかになってきている。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、国富地区や宮崎北地区のコミュニティとの結節を検討し、輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	13	宮交シティ～国富～保坂	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入1台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入3台 R1車両導入4台	主な利用層である高校生を対象としたアンケート実施による意見集約・分析を実施するとともに、国富町内中学生を対象に、高校進学前の定期券説明会を実施することで通学需要の取り込みを図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	686	674	98.2%	おおむね目標どおりの結果となった。	申請番号13の終点までは申請11及び12は大半の経路が重複するのでそれぞれの申請番号で利用者が入れ替わっている側面があり、目標は未達成であった。事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、国富地区や宮崎北地区のコミュニティとの結節を検討し、輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	14	西都城～栄町～宮崎空港～宮崎駅	左の系統の運行	地域住民や観光目的及びビジネス目的利用者を取り込むため、当該路線の沿線施設を記載した利用案内リーフレットを配布し、輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	287	299	104.2%	おおむね目標どおりの結果となった。	特に通勤定期的利用が増加。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、地域住民や観光目的及びビジネス目的利用者を取り込むため、継続して当該路線の沿線施設を記載した利用案内リーフレットを配布や1日乗り放題乗車券をPRすることで、輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	15	宮崎～花見～雀ヶ野	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入1台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入3台 R1車両導入4台	旧高岡町内支線交通との連携強化(乗合タクシーにバス時刻表を設置など)、さらに市内競合路線との運行時間調整(ダイヤ改正)による利便性の向上により輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	321	352	109.8%	通勤・通学利用が増加	通勤・通学定期的増加もあり、目標を達成できた。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、宮崎市地域公共交通網形成計画の一環でデータ分析を行い、路線再編を行っていく。



①補助対象事業者等			②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)		
						評価	1000kmあたり人員(人)					
							目標	実績	達成率		理由	
宮崎交通(株)	16	宮崎～祇園台・穆佐～尾頭	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入1台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入3台 R1車両導入4台	、旧高岡町内支線交通との連携強化(乗合タクシーにバス時刻表を設置など)、さらに市内競合路線との運行時間調整(ダイヤ改正)による利便性の向上により輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	598	587	98.2%	おおむね目標どおりの結果となった。	通学利用や現金利用が減少したこともあり、目標未達成となった。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、宮崎市地域公共交通網形成計画の一環でデータ分析を行い、路線再編を行っていく。
宮崎交通(株)	17	宮崎～祇園台・穆佐・高岡温泉～尾頭	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入1台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入3台 R1車両導入4台	、旧高岡町内支線交通との連携強化(乗合タクシーにバス時刻表を設置など)、さらに市内競合路線との運行時間調整(ダイヤ改正)による利便性の向上により輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	408	382	93.7%	高齢者利用が減少。	高齢者の利用が大きく減少(約1,000人減)しており、目標未達成となった。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、宮崎市地域公共交通網形成計画の一環でデータ分析を行い、路線再編を行っていく。
宮崎交通(株)	18	宮崎～正手～七野	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入1台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入3台 R1車両導入4台	旧田野町内広報紙を活用した路線バスPRの実施により輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	741	766	103.4%	おおむね目標どおりの結果となった。	引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、田野地区で今後導入を検討しているコミュニティ交通との効率的な結節について、検討を行っていく。
宮崎交通(株)	19	宮崎～正手～合又・田野総合運動公園	左の系統の運行 H25車両導入4台 H26車両導入1台 H27車両導入3台 H28車両導入3台 H29車両導入4台 H30車両導入3台 R1車両導入4台	旧田野町内広報紙を活用した路線バスPRの実施により輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	728	767	105.3%	高齢者利用が増加。	ICカードでの利用が増加しており、特に高齢者利用が伸びた。生産性向上の取組で引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、田野地区で今後導入を検討しているコミュニティ交通との効率的な結節について、検討を行っていく。

①補助対象事業者等			②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)		
						評価	1000kmあたり人員(人)					
							目標	実績	達成率		理由	
宮崎交通(株)	20	西都城～イオンモール～小林	左の系統の運行 H25車両導入1台 H26車両導入2台 H28車両導入1台 H30車両導入1台 R1車両導入1台	小林駅に集約される交通網との連携強化を図るため、当該路線の沿線施設を記載した利用案内リーフレットを配布し、輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	218	228	104.5%	おおむね目標どおりの結果となった。	引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、沿線小中学校へのワンコインパスの周知や沿線沿いの中核施設(都城市立図書館など)との利用促進策を行い、輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	21	イオンモール都城～山田～熊野神社前	左の系統の運行 H25車両導入1台 H26車両導入2台 H28車両導入1台 H30車両導入1台 R1車両導入1台	温泉施設と連携し、当該路線の沿線施設を記載した利用案内リーフレットを配布することで、輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	203	203	100.0%	おおむね目標どおりの結果となった。	引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、沿線の温泉施設や中核施設(都城市立図書館など)と連携して、周知を行い、輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	22	イオン都城～妻ヶ丘・イオンモール都城・都城駅～川原谷	左の系統の運行 H25車両導入1台 H26車両導入2台 H28車両導入1台 H30車両導入1台 R1車両導入1台	路線沿線上の教育施設開校に伴い、当該通学需要を取り込むため、学生向け利用案内リーフレットを配布し、輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	236	252	107.0%	通学利用が増加	主として通学利用の増加により、目標が達成。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、中核施設(都城市立図書館など)と連携して、周知を行い、輸送量の増加を図る。

①補助対象事業者等			②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)		
						評価	1000kmあたり人員(人)					
							目標	実績	達成率		理由	
宮崎交通(株)	23	(特急)西都城～高速道・宮崎空港～宮崎 駅	左の系統の運行	路線沿線上の教育施設 開校に伴い、当該通学需 要を取り込むため、学生 向け利用案内リーフレット を配布し、輸送量の増加 を図った。	A	事業は計画に位置付 けられたとおり、適切 に実施された。	A	323	335	103.8%	おおむね目標ど おりの結果となっ た。	特に宮崎空港から宮崎市内へ向かう一 般客のICカード利用が増加。引き続き、事 業者や自治体等の関係者が連携して、持 続可能な地域公共交通網の構築に向けて 運行ルートや他交通網との接続等の見直 しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、地域 住民や観光目的及びビジネス目的利用 者を取り込むため、当該路線の沿線施設 を記載した利用案内リーフレットを配布 し、輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	24	南延岡～浦城港～宮野浦	左の系統の運行 H27車両導入2台 H28車両導入1台 H29車両導入2台 R1車両導入1台	ラッピングバスの運行に よるPRとともに、沿線の 飲食店と連携した路線の PR(ポスター、のぼり等) やスタンプラリーの実施 により輸送量の増加を 図った。	A	事業は計画に位置付 けられたとおり、適切 に実施された。	A	291	328	112.6%	通学利用が増 加。	H31.4に減便を実施(▲3.0回)。前年に比 べ、減料以上の人員減少もなく、効率的な 減便となった。引き続き、行政と連携しなが ら、効率的な運用と観光需要の取込を図っ ていく。R2年度生産性向上の取組として、 沿線観光・飲食施設と連携した利用促進 策により輸送量の増加を図っていく。

①補助対象事業者等			②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)		
						評価	1000kmあたり人員(人)					
							目標	実績	達成率		理由	
宮崎交通(株)	25	イオンタウン日向～塚原	左の系統の運行 H27車両導入2台 H28車両導入1台 H29車両導入2台 平成30年度再編実施計画特例対象 R1車両導入1台	日向・東臼杵地域公共交通再編実施計画に基づき、長大路線である路線バス塚原線と神門線を道の駅とうごうで分割することにより、高齢者の乗車負担の軽減を図るとともに、ダイヤ見直しによるコミュニティバスとの接続強化により、利用者の利便性向上に努め、輸送量の増加を図った。加えて客貨混載も継続した。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	80	78.6	98.3%	おおむね目標どおりの結果となった。	通学定期利用増や再編計画実施に伴う他路線からの乗り換え利用を取りためたため、昨年度より人員増となったが、目標未達成となった。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、客貨混載事業の継続、沿線の温泉施設を活用した利用促進策や地域住民の輸送量の減少を危惧してもらえよう、チラシ等で周知を図る。
宮崎交通(株)	26	イオンタウン日向～温泉～神門(浜子橋)	左の系統の運行 H27車両導入2台 H28車両導入1台 H29車両導入2台 平成30年度再編実施計画特例対象 R1車両導入1台	日向・東臼杵地域公共交通再編実施計画に基づき、長大路線である路線バス神門線を道の駅とうごうで分割することにより高齢者の乗車負担の軽減を図り、ダイヤ見直しによるコミュニティバスとの接続強化により利用者の利便性向上に努め、輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	99	157	158.8%	通学利用が増加。	通学定期利用増や再編計画実施に伴う他路線からの乗り換え利用を取りためたため人員増となった。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、沿線の温泉施設を活用した利用促進策や地域住民の輸送量の減少を危惧してもらえよう、チラシ等で周知を図る。
宮崎交通(株)	27	イオンタウン日向～ヶ丘・大福良団地～レーヨン	左の系統の運行 H27車両導入2台 H28車両導入1台 H29車両導入2台 R1車両導入1台	日向・東臼杵地域公共交通再編実施計画における路線バス塚原線及び神門線のダイヤ改正にあわせて、当該路線のダイヤ改正を実施し、乗継利便性の向上を図る。また、JR日向市駅においてもJR九州の時刻にあわせたダイヤ改正を行い、輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	466	464	99.5%	おおむね目標どおりの結果となった。	定期券(通勤・通学)は堅調しているものの、それ以外の利用が減少しており、目標未達成となった。R1年10月より、申請番号1番(延岡～宮ノ上線)が本路線へ統合。事業者、自治体等が連携しながら、延岡～日向線全体の効率的な運用を目指して、見直しを図っていく。R2年度生産性向上の取組として、当該路線で利用できるワンコインバスのPRや新たな支線交通の導入により、幹線と接続させることで輸送量の増加を図る。

①補助対象事業者等			②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)		
						評価	1000kmあたり人員(人)					
							目標	実績	達成率		理由	
宮崎交通(株)	28	飫肥～油津～夫婦浦～幸島入口	左の系統の運行 H26車両導入1台 H27車両導入1台 H28車両導入1台 H30車両導入1台	コミュニティバスでの当該路線告知による地元需要の取り込みや、車内での日南・串間観光マップ配布による観光需要確保を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	221	247	111.9%	現金客の増加。	事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、地域間幹線と日南市内線に重複区間がある為、結節点の設定等で重複を解消し、効率的な運用を図る。また、市木地区周遊マップと路線バスを組み合わせたモデルコースを作成し、観光需要を創出し、輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	29	西都～佐土原駅～佐土原高校	左の系統の運行 H26車両導入1台 H30車両導入1台	主な利用層である高校生を対象としたアンケート実施による意見集約・分析を実施するとともに、沿線高校への進学前定期券説明会を実施することによって通学需要の取り込みを図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	355	365	102.8%	おおむね目標どおりの結果となった。	通勤・通学利用は微減となったが、一般利用が伸び、目標達成となった。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、沿線の商業施設の乗入れやイベント等での周知を通じて、輸送量の増加を図る。
宮崎交通(株)	30	小林～飯野・えびの市役所～京町	左の系統の運行 H25車両導入1台 H26車両導入2台 H28車両導入1台 H30車両導入1台 R1車両導入1台	えびの市が実施する高齢者向け定期券購入費補助により高齢者需要の取り込みを図るとともに、「路線バスに親しむ日」の2日間、一定要件乗車の小中学生の運賃無料化によって広く路線バスをPRすることで輸送量の増加を図った。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	136	148	108.5%	通学利用が増加。	通学利用の増加により目標達成となった。引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。 R2年度生産性向上の取組として、公共交通との連携強化(タクシー利用料金の助成)、悠々バスの購入費補助(1/2)、イベント(産業文化祭、京町二日市)期間中の小中学生の運賃無料化、えびの市在住の中国人留学生(120名程度)へのPRを通じて、新たな需要の創出を図り、輸送量の増加を図る。

①補助対象事業者等			②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)		
						評 価	1000kmあたり人員(人)				理由	
							目標	実績	達成率			
鹿児島交通(株)	31	都城～岩川～野方～県民健康プラザ～鹿屋	左の系統の運行	前年度の生産性向上の取組(今年度への持越しとしていた計画)を実施。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	385	404	104.9%	おおむね目標どおりの結果となった。	今後も生産性の向上の取組(運行回数や経路の見直しなど)に取り組み、運行費用の削減を行うと同時に沿線市町村と利用者の増加になる施策を協議し市町村などから協力をいただき、バス利用者の利用促進の観点から路線毎の利用に合わせた改善を行う。
鹿児島交通(株)	32	志布志～稚児松～松山駅～岩川～中央通り～都城	左の系統の運行	前年度の生産性向上の取組(今年度への持越しとしていた計画)を実施。	A	事業は計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	471	440	93.4%	利用者の減少(特に高齢者及び通学生の利用の減少)が大きい。	生産性の向上の取組から、各曜日における運行回数の見直しを行ったが利用者の利用促進にはつながらなかった為、状況を検討し更なる計画を実施する。また、市町村と協議し、利用者の増加につながる施策をバス利用者の利用促進の観点から路線に合わせた改善を行う。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表  
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年3月30日

九州運輸局

評価対象事業名:地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業 評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今 後の改善点	評価結果	
鹿児島県バス対策協議会	鹿児島交通(株) 種子島・屋久島交通(株) 南国交通(株) (株)しまバス JR九州バス(株) 宮崎交通(株)	72系統 ※詳細は別添 一次評価のと おり	別添一次評価の とおり	A評価:71系統 B評価:1系統 C評価:0系統	A評価:30系統 B評価:42系統 C評価:0系統  【参考:前年度】 A評価:51系統 B評価:26系統 C評価:0系統	別添一次評価 の とおり	<p>・企画乗車券の販売促進、エコドライブ社内表彰制度の創設、利用状況の分析結果を反映した運行回数や時刻の見直し、地域イベントでの路線図や時刻表配布、HPの路線図や時刻表の改良、自治体による定期券購入補助等利用促進に取り組まれていることを評価します。</p> <p>・生産性向上に関するWG等を地域毎に開催して、検討や意見交換を行い、関係市町村及び事業者が目標の達成に向け取り組みを行っていくことの共通認識が図られていることを評価します。引き続き、地域間幹線系統における生産性向上の取り組みの着実な実施を期待します。</p> <p>・生活路線と観光利用は必ずしも一致しないこともありますので、利用者の実態把握、利用者増減の要因分析を行い、地域特性を踏まえた対応策を考えていくことが重要です。今後も県と市町村が連携を図り、事業者や住民と共に持続可能な効率的で利便性の高いネットワークが維持改善されることを期待します。</p>	評価指標 【平均乗車 密度】 【輸送量】

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月23日

協議会名: 鹿児島県バス対策協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点		
				評価	平均乗車密度		輸送量		理由	
					H30	今期	H30			今期
鹿児島交通㈱	鹿児島～大坂～白川～加世田	生産性向上の取組から運行回数の見直しを実施  平成30年度に運行回数または時刻変更を行ったため、今年度は動向を考え、生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	5.0	5.0	15.0	15.0	生産性向上の取組を引き続き行い、路線毎の運行回数の見直し、経路の再編、幹線系統から代替系統への移行などの合理化に取り組み運行費用の削減を行うと同時に、バス利用者の促進から各自治体へ協議し協力を行い路線毎の利用に合わせた改善を行う	
鹿児島交通㈱	鹿児島～川辺～枕崎(特急)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	5.0	5.1	19.5	24.9		
鹿児島交通㈱	指宿～警察署前～今和泉～池田～唐船峡～開聞駅前		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	4.9	5.0	16.1	16.5		
鹿児島交通㈱	なのはな館～指宿～利永～唐船峡～開聞口～穎娃～大川～東大川		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	5.1	5.1	25.5	24.9		生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため
鹿児島交通㈱	鹿児島～指宿～ホテル～山川棧橋(普通)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	5.3	5.2	34.9	34.3		利用者の減少があったため
鹿児島交通㈱	加世田～薩南病院～大浦～野間池		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.8	4.8	30.2	29.7		生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため
鹿児島交通㈱	加世田～白川～土卒～加世田(循環線)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	5.1	5.1	15.3	15.3		



①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点		
				評価	平均乗車密度		輸送量		理由	
					H30	今期	H30			今期
鹿児島交通㈱	加世田～高倉～川辺～知覧	生産性向上の取組から運行回数の見直しを実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.6	4.6	18.8	16.1	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	生産性向上の取組を引き続き行い、路線毎の運行回数の見直し、経路の再編、幹線系統から代替系統への移行などの合理化に取り組み運行費用の削減を行うと同時に、バス利用者の促進から各自治体へ協議し協力をいり路線毎の利用に合わせた改善を行う
鹿児島交通㈱	加世田～加世田高校～川辺～知覧		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	4.9	5.2	21.0	25.4		
鹿児島交通㈱	知覧～霜出～垂水～枕崎		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	5.1	5.0	19.3	16.5	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	鹿児島～中央駅前～新屋敷～川辺高前～枕崎		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	5.1	5.1	35.1	30.0	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	枕崎～坊～泊～久志～今岳	平成30年度に運行回数または時刻変更を行ったため、今年度は動向を考え、生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	4.8	4.8	16.3	16.3		
鹿児島交通㈱	枕崎～坊～泊～清原～枕崎(循環線)	生産性向上の取組から運行回数の見直しを実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.5	4.5	19.3	16.2	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	伊集院高校～加世田～田ノ野～枕崎	平成30年度に運行回数または時刻変更を行ったため、今年度は動向を考え、生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	5.1	5.1	19.8	19.8		
鹿児島交通㈱	指宿いわさきホテル～指宿～道の駅喜入～知覧～武家屋敷入口		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	5.3	5.3	26.5	26.5		
鹿児島交通㈱	加世田～津貫～枕崎		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	5.0	5.1	19.5	20.4		
鹿児島交通㈱	伊集院高校～伊作～加世田		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.9	4.8	23.5	23.0	利用者の減少があったため	

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点		
				評価	平均乗車密度		輸送量		理由	
					H30	今期	H30			今期
鹿児島交通㈱	伊集院～小野～伊作		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	4.5	4.5	16.2	16.2		
鹿児島交通㈱	東大川～ウェルフェア九州病院～枕崎	平成30年度に運行回数または時刻変更を行ったため、今年度は動向を考え、生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.6	4.7	20.7	20.6	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	鹿児島～中央駅前～知覧～特攻観音入口		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	5.6	5.7	67.7	70.1		
鹿児島交通㈱	鹿児島駅前～犬迫～伊集院	生産性向上の取組から運行回数の見直しを実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	5.2	5.2	58.7	56.6	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	山川～港～役場～漁港～山川駅前～長崎鼻～開聞駅前		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.5	4.4	16.2	17.1	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	鹿児島～鹿児島中央駅～谷山駅前～伊作～加世田(急行)	平成30年度に運行回数または時刻変更を行ったため、今年度は動向を考え、生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	5.5	5.5	67.6	67.6		
鹿児島交通㈱	潟山～指宿駅～いわさきホテル～山川駅～浜児ヶ水～長崎鼻～開聞駅前		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.9	4.8	29.4	28.8	利用者の減少があったため	
鹿児島交通㈱	知覧～永里～種子尾～青戸小前～只角		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	5.2	5.1	17.1	20.4	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	伊敷ニュータウン東～隼人駅・日当山・医療センター～重久車庫	生産性向上の取組から運行回数の見直しを実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	5.1	5.2	36.2	35.8	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	伊敷ニュータウン東～自衛隊・国分～重久車庫		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	5.1	5.2	57.1	57.2		

生産性向上の取組を引き続き行い、路線毎の運行回数の見直し、経路の再編、幹線系統から代替系統への移行などの合理化に取り組み運行費用の削減を行うと同時に、バス利用者の促進から各自自治体へ協議し協力をいり路線毎の利用に合わせた改善を行う

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点		
				評価	平均乗車密度		輸送量		理由	
					H30	今期	H30			今期
鹿児島交通㈱	伊敷ニュータウン東～天文館・重富～始良ニュータウン車庫	生産性向上の取組から運行時刻の見直しを実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	5.1	5.1	36.7	36.7		
鹿児島交通㈱	霧島いわさきホテル～嘉例川・牧園アリーナ～鹿児島空港	利用状況の分析を行い、運行回数や時刻変更の見直しを検討するため、生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	3.3	3.2	26.0	25.6	利用者の減少があったため	
鹿児島交通㈱	国分駅～霧島神宮駅～霧島いわさきホテル		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	3.6	3.5	33.4	32.5	利用者の減少があったため	
鹿児島交通㈱	鹿児島駅～野田・島平～川内営業所		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.3	4.3	30.9	17.2	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	鹿児島駅～伊集院・島平～川内営業所	生産性向上の取組から運行回数の見直しを実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.8	4.7	21.6	23.5	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	鹿児島駅～伊集院・島平～串木野		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.2	4.2	36.9	27.3	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	鹿児島駅～郡山・常磐～岳	利用状況の分析を行い、運行回数や時刻変更の見直しを検討するため、生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	4.9	4.9	35.7	35.7		
鹿児島交通㈱	鹿児島駅～郡山・里岳～岳		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	5.2	5.2	17.1	17.1		
鹿児島交通㈱	川内営業所～市比野～入来鉄道記念館前	生産性向上の取組から運行回数の見直しを実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	3.6	3.6	32.0	28.4	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	川内営業所～中郷・五社～宮之城車庫		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.0	4.1	55.2	45.9	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	

生産性向上の取組を引き続き行い、路線毎の運行回数の見直し、経路の再編、幹線系統から代替系統への移行などの合理化に取り組み運行費用の削減を行うと同時に、バス利用者の促進から各自治体へ協議し協力をいり路線毎の利用に合わせた改善を行う

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点		
				評価	平均乗車密度		輸送量		理由	
					H30	今期	H30			今期
鹿児島交通㈱	霧島市役所～日当山・妙見～霧島いわさきホテル	利用状況の分析を行い、運行回数や時刻変更の見直しを検討するため、生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	2.9	2.9	21.1	21.1		
鹿児島交通㈱	川内営業所～済生会・草良～羽鳥車庫	生産性向上の取組から運行回数の見直しを実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	3.5	3.4	20.3	14.6	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	重久車庫～見次・日当山・医療センター～重久車庫	利用状況の分析を行い、運行回数や時刻変更の見直しを検討するため、生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	2.1	2.2	26.6	27.9		
鹿児島交通㈱	加治木本町～野久美田・姫城温泉・医療センター～重久車庫	生産性向上の取組から運行回数の見直しを実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	3.3	3.2	19.8	18.8	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	川内営業所～市民病院・福祉センター・市比野～入来鉄道記念館		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.0	4.1	19.6	16.8	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	都城～岩川～野方～県民健康プラザ～鹿屋		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.0	4.1	22.4	21.7	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	岩川～尾野見～志布志駅		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.4	4.4	19.8	19.3	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	鹿屋～高山～内之浦		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.0	4.0	18.4	17.2	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	鹿屋～宮下～高山		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	3.3	3.3	17.8	16.1	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	鹿屋～平原～吾平～高山		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	3.7	3.7	15.5	15.1	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
										生産性向上の取組を引き続き行い、路線毎の運行回数の見直し、経路の再編、幹線系統から代替系統への移行などの合理化に取り組み運行費用の削減を行うと同時に、バス利用者の促進から各自治体へ協議し協力をいり路線毎の利用に合わせた改善を行う

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点		
				評価	平均乗車密度		輸送量		理由	
					H30	今期	H30			今期
鹿児島交通㈱	鹿屋～大隅湖～百引	利用状況の分析を行い、運行回数や時刻変更の見直しを検討するため、生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	3.6	3.5	15.4	14.7	利用者の減少があったため	生産性向上の取組を引き続き行い、路線毎の運行回数の見直し、経路の再編、幹線系統から代替系統への移行などの合理化に取り組み運行費用の削減を行うと同時に、バス利用者の促進から各自治体へ協議し協力をし路線毎の利用に合わせた改善を行う
鹿児島交通㈱	鹿屋～大根占～根占港～根占	生産性向上の取組からみなし系統と統合を実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.3	4.4	31.3	31.2	生産性向上の取組から、みなし系統の廃止を行い、運行回数の見直しを行ったため	
鹿児島交通㈱	垂水～垂水港～鹿屋～志布志(普通)		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	4.0	4.3	36.0	38.7		
鹿児島交通㈱	垂水港～垂水中央病院～桜島口～前崎～文学碑前～桜島港	利用状況の分析を行い、運行回数や時刻変更の見直しを検討するため、生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	3.3	3.4	23.1	23.4		
鹿児島交通㈱	桜島口～文学碑前～桜島港		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	2.9	2.8	29.0	27.7	利用者の減少があったため	
鹿児島交通㈱	垂水中央病院～垂水～垂水港～鹿屋～あすばる大崎～志布志	生産性向上の取組からみなし系統と統合を実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	3.9	3.9	23.4	23.4		
鹿児島交通㈱	鹿児島中央駅～加治木団地～牧之原	生産性向上の取組から運行回数の見直しを実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.0	4.1	19.2	16.4	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	
鹿児島交通㈱	志布志～岩川～牧之原～検校橋～旭通～国分駅～鹿児島空港	利用状況の分析を行い、運行回数や時刻変更の見直しを検討するため、生産性向上の取組を次年度への持ち越しとした	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	4.2	4.2	16.8	16.8		
鹿児島交通㈱(三州自動車㈱譲受系統)	志布志～稚児松～松山駅～岩川～中央通り～都城	生産性向上の取組から運行回数の見直しを実施	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.7	4.6	15.5	15.1	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点		
				評価	平均乗車密度		輸送量		理由	
					H30	今期	H30			今期
種子島・屋久島交通㈱	永田～上屋久町役場～いわさきホテル	平成30年10月1日より、運行回数の見直しならびに補助系統の統合を行った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	3.7	3.7	16.6	15.9	生産性向上の取組ならびに台風での運休により、運行回数が減少したため。	生産性の向上の観点から、路線毎の運行の合理化(運行回数の見直し、経路の再編、運行時刻の変更など)に取り組み収支改善を図ると同時に、市町村などの協力を行いバス利用者の利用促進の観点から路線毎の利用に合わせた改善を行う。
種子島・屋久島交通㈱	宮之浦港～安房港～いわさきホテル～粟生橋		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	4.7	4.7	18.8	32.9		
南国交通㈱	佐潟口～出水～水俣車庫	生産性向上に対する取組で効果が出たもの、結果の伴わないものがあり、今後も引き続き定時性確保や、HPの充実や停留所標識・時刻表の更新を行い利用促進に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	3.1	3.2	25.7	26.5		自治体並びに競合交通機関と連携し地域住民のニーズに合った路線再編を実施し利用促進を図りたい。また、停留所環境の整備やHP・Googleへの情報提供を実施し、利用者確保を図る。
南国交通㈱	隈之城車庫～西方駅前～阿久根新港		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	4.1	4.3	50.8	53.3		
南国交通㈱	大口～本城～栗野駅前		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	6.6	6.1	19.8	18.3	沿線市町村の人口の減少および少子化による通学利用者が減少した	
南国交通㈱	大口～針持～宮之城		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	7.8	8.1	35.8	37.2		
南国交通㈱	加治木港～下有川～溝辺十文字		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	5.0	4.9	18.0	17.6	沿線市町村の人口の減少および少子化による通学利用者が減少した	
南国交通㈱	阿久根市役所～出水・宮之城～鹿児島空港		A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	3.7	3.7	44.4	44.4		
㈱しまバス	奥又～中心商店街～秋名～安木屋場		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	2.7	2.3	18.4	15.8	沿線人口減にともない利用者数が減少したため。	
㈱しまバス	与義又～赤木名～空港		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.6	3.0	46.5	29.4	定期通学者の減少と“名瀬～奄美パーク～空港”へ分散したため	

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況				⑥事業の今後の改善点		
				評価	平均乗車密度		輸送量		理由	
					H30	今期	H30			今期
榊しまバス	ウエストコート～西仲間～古仁屋(海の駅)	路線沿線人口減に伴う利用者数の自然減以外にも運転手不足という実情を踏まえ、収益向上を目指すべく大きな路線再編を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	3.0	3.1	30.8	29.7	生産性向上の取組から運行回数の削減を行ったため	島嶼地域という特有の問題から運転手の慢性的な確保難にあえぐが確保するための施策と路線再編を行う。市町村との密な協議、運行費用削減、バス利用者の利便性向上の施策を実施することから次年度反映される見込み。
榊しまバス	名瀬～奄美パーク～空港	路線沿線人口減に伴う利用者数の自然減以外にも運転手不足という実情を踏まえ、収益向上を目指すべく大きな路線再編を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	5.4	3.7	80.2	54.7	路線人口減と昨年はLCC(格安航空会社線)が通年運航であったが今年度は長い期間運休であったことが大きく響いた。	
JR九州バス(株)	鹿児島駅～鹿児島中央～薩摩郡山～宮之城	バスロケーションシステム(多言語対応)を導入し、利便性向上を高めた。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	6.1	6.3	45.1	46.5		お客さまの利便性を考慮した再編も含めた系統と時刻の見直しによる効率的な運行を検討し、収支改善に努めていく。また、利用促進のPRを行う等沿線自治体と連携してバスのご利用を促す利用促進活動に取り組む。
	鹿児島駅～川田・岩戸口～薩摩郡山	ホームページをスマホ対応に全面リニューアルし、サイトを開設した。また、乗合路線の英語サイトもオープンした。乗合路線のページについては、バス停沿線の生活に直結する施設や沿線観光地の情報【沿線案内】を、路線系統毎に制作した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	4.8	4.9	42.2	43.1		
	鹿児島駅～鹿児島中央駅・明桜館高校前～薩摩郡山		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B	4.6	4.1	26.2	20.0	少子化による通学利用の減少	
宮崎交通(株)	イオン都城～妻ヶ丘・イオンモールミエル・都城駅～川原谷	路線沿線上の教育施設開校に伴い、当該通学需要を取り込むため、学生向け利用案内リーフレットを配布し、輸送量の増加を図った。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A	3.0	3.0	15.9	15.9		引き続き、事業者や自治体等の関係者が連携して、持続可能な地域公共交通網の構築に向けて、運行ルートや他交通網との接続等の見直しを不断に行う。R2年度生産性向上の取組として、中核施設(都城市立図書館など)と連携して、周知を行い、輸送量の増加を図る。